

**KEK Internal 2016-7**  
**July 2016**  
**R/D**

**Lecture Notes of  
Practices on How to Write Source Routine  
(Modified on June 27, 2016)**

H. Hirayama and Y. Namito



High Energy Accelerator Research Organization

**High Energy Accelerator Research Organization (KEK) Notices for  
KEK Internal 2016-\*\* and its included software**

**Use:** This report and its included software should be used for non-commercial purposes only. Contact KEK regarding commercial use.

**KEK disclaimer of liability:** KEK makes no representations or warranties, express or implied, nor assumes any liability for the use of this report or its contents, including software.

**Maintenance of notices:** In the interest of clarity regarding the origin and status of this report and its included software, this and all the preceding KEK notices are to: (1) remain affixed to any copy or derivative of this report or its software made or distributed by the recipient of this report or its software; and (2) be affixed to any copy of a document or any software made or distributed by the recipient that contains a copy or derivative of this report or its software.

For the information on the copyright of the EGS5 Code System, please visit the URL below.  
<http://rcwww.kek.jp/research/egs/egs5.html>

©High Energy Accelerator Research Organization (KEK), 2016

KEK Reports are available from

High Energy Accelerator Research Organization (KEK)  
1-1 Oho, Tsukuba-sh  
Ibaraki-ken, 305-0801  
JAPAN

Phone: +81-29-864-5137  
Fax: +81-29-864-4604  
E-mail: [irdpub@mail.kek.jp](mailto:irdpub@mail.kek.jp)  
Internet: <http://www.kek.jp>

**Lecture Notes of  
Practices on How to Write Source Routine  
(Modified on June 27, 2016)**

**H. Hirayama and Y. Namito**



*High Energy Accelerator Research Organization*

# Contents

<b>Japanese Parts</b>	<b>1</b>
1 はじめに	2
2 基にするユーザーコード <code>ucsource.f</code> の概要	2
3 実習課題 1 : 線源エネルギー	2
3.1 Co-60 の $\gamma$ -線源	2
3.1.1 <code>if</code> 文を使用する方法	2
3.1.2 <code>data</code> 文を使用する方法	4
3.1.3 <code>data</code> ファイルを使用する方法	5
3.2 Ir-192 の $\gamma$ 線源	7
3.3 Sr-90- $\beta$ 線源	8
3.3.1 ICRU Report 56 のデータを使用する場合	8
3.3.2 RADAR - The Decay Data のデータを使用する場合	13
4 実習課題 2 : 線源位置	16
4.1 直接サンプリング	16
4.2 Rejection 法	17
5 実習課題 4 : 線源方向 ( $2\pi$ )	18
5.1 直接サンプリング	18
5.2 Rejection 法	20
6 実習課題 5 : 等方円柱線源	21
6.1 直接サンプリング	21
6.2 Rejection 法	22
<b>English Parts</b>	<b>25</b>
1 Introduction	26
2 Outlines of user code <code>ucsource.f</code>	26
3 Practice 1: Source energy	26
3.1 $\gamma$ -rays from Co-60	26
3.1.1 Use of <code>if</code> statement	26
3.1.2 Use of <code>data</code> statement	28
3.1.3 Use of <code>data</code> file.	29
3.2 $\gamma$ -rays from Ir-192	31
3.3 $\beta$ -rays from Sr-90	32
3.3.1 Using ICRU Report 56 data	32
3.3.2 Using RADAR - The Decay Data	37
4 Practice 2: Source Position	40
4.1 Direct sampling	40
4.2 Rejection method	41
5 Practice 4: Source Direction	42
5.1 Direct sampling	42
5.2 Rejection method	44

<b>6 Practice 5: Isotropic Right Cylinder Volume Source</b>	<b>45</b>
6.1 Direct sampling . . . . .	45
6.2 Rejection method . . . . .	47
<b>Appendix: Full listings of ucsourc.f</b>	<b>50</b>

線源の作り方実習  
(Japanese Parts)

## 1 はじめに

本テキストは、毎年実施している egs 講習会の参加者等 egs5 の初心者ユーザーが、モンテカルロ法による粒子の輸送計算で重要な課題である線源部分の書き方を実習問題を通じて理解することを目的としたものである。等方に放出される体積分布線源を扱いたいというユーザーが増えてきている状況を踏まえて、KEK Internal 2011-7 として出版されている元のテキストに、新たに等方円柱線源に関連した実習加えたものである。

## 2 基にするユーザーコード `ucsource.f` の概要

形状としては、Fig. 1 に示すように `cg` を用いた円筒形状である。各種の線源のテストを行うことを目的にしているので、物質は全て真空 (0) に設定している。単一エネルギー (1.253MeV) の光子が、Z-軸上-5cm の位置からビーム状に入力するように設定されている。

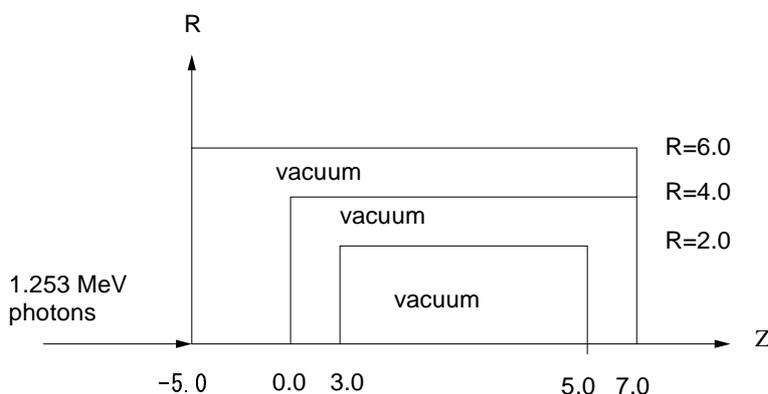


Figure 1: Geometry of `ucsource.f`

## 3 実習課題 1 : 線源エネルギー

### 3.1 Co-60 の $\gamma$ -線源

線源を 1.173MeV と 1.333MeV の  $\gamma$  線が同じ確率で発生する Co-60 の  $\gamma$ -線源に変更する。if 文を使用する方法、data 文を使用する方法とデータをファイルから読み込む方法がある。

#### 3.1.1 if 文を使用する方法

1. `cp ucsource.f ucsource1_0.f`

2. `ucsource1_0.f` の変更

- 線源エネルギーに関する配列を増やす。

```
* esbin(1),spg(1),spe(1)
```

を

```
* esbin(2),spg(2),spe(2)
```

に変更。

```
nsebin=1
```

を

```
nsebin=2
```

に変更。

- 運動エネルギーの最大値を変更する。

```
ekein=1.253      ! Kinetic energy
```

を

```
ekein=1.333      ! Kinetic energy
```

に変更。

```
esbin(1)=ekein
```

を

```
esbin(1)=1.173
esbin(2)=1.333
```

に変更。

- エネルギーのサンプリング部分を変更する。

```
ekein = ekein
spg(1)=spg(1)+1.0
```

を

```
call randomset(rnnow)
if(rnnow.le.0.5) then
  ekein = 1.173
  spg(1)=spg(1)+1.0
else
  ekein = 1.333
  spg(2)=spg(2)+1.0
end if
```

に変更。

### 3. ucsouce1\_0.f を egs5run で実行する。

- Linux 又は Cygwin の場合  
ユーザーコード名として、ucsource1\_0 を、ユニット4のファイル名として ucsource  
を入力し、ユニット25には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して1を入力する。
- DOS の場合  
egs5run ucsouce1\_0 ucsource ucsource
- ucsouce1\_0.f 等が、egs5run.bat を実行しているディレクトリーと別なディレクトリー  
にある場合は、ディレクトリー名を記載する。DOS の場合、ディレクトリーの識別子  
は、/ ではなく \ であるので、間違わないように注意する。

### 4. egs5job.out の光子の線源スペクトルが、1対1に近い比率になっていることを確認する。

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
1.1730	MeV--	0.49710	0.0000	
1.3330	MeV--	0.50290	0.0000	

### 3.1.2 data 文を使用する方法

1. cp ucsource1\_0.f ucsource1\_1.f

2. ucsource1\_1.f の変更

- real\*8 宣言に espdf(2), escdf(2) を追加する。

```
real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(2),spg(2),spe(2)
```

を

```
real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(2),spg(2),spe(2),espdf(2),escdf(2)
```

に変更。

- integer の宣言後に data 文を定義する。

```
integer
* i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin
```

を

```
integer
* i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin

data esbin/1.173,1.333/
data espdf/0.5,0.5/
```

に変更。

- nsebin=2 の後に、cdf を計算する文を追加する。

```
nsebin=2
```

を

```
      nsebin=2
!-----
! Calculate cdf from pdf
!-----
      tnum=0.D0
      do ie=1,nsebin
         tnum=tnum+espdf(ie)
      end do

      escdf(1)=espdf(1)/tnum
      do ie=2,nsebin
         escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie)/tnum
      end do
```

に変更。

- 運動エネルギーの最大値の表現を変更する。

```
ekein=1.333          ! Kinetic energy
```

を

```
ekein=esbin(nsebin) ! Maximum kinetic energy
```

に変更。

- 不要な文を削除する。

```
esbin(1)=1.173
esbin(2)=1.333
```

を削除する。

- 線源エネルギーのサンプリング部を変更する。

```
! -----
! Determine source energy
! -----
call randomset(rnnow)
if(rnnow.le.0.5) then
  ekein = 1.173
  spg(1)=spg(1)+1.0
else
  ekein = 1.333
  spg(2)=spg(2)+1.0
end if
```

を

```
! -----
! Determine source energy
! -----
call randomset(rnnow)
do ie=1,nsebin
  if(rnnow.le.escdf(ie)) go to 1000
end do
1000 ekein=esbin(ie)
if(iqin.eq.0) then
  spg(ie)=spg(ie)+1.0
else
  spe(ie)=spe(ie)+1.0
end if
```

に変更。

3. `ucsource1_1.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource1_1` を、ユニット4のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット25には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して1を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource1_1 ucsource ucsource`

4. `egs5job.out` の光子の線源スペクトルが、1対1に近い比率になっていることを確認する。

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
1.1730	MeV--	0.49710	0.0000	
1.3330	MeV--	0.50290	0.0000	

### 3.1.3 data ファイルを使用する方法

1. `cp ucsource1_1.f ucsource1_2.f`

2. `ucsource1_2.f` の変更

- `local variable` を変更する。

```
real*8
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(2),spg(2),spe(2),espdf(2),escdf(2)
```

! Local variables

を

```

real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,esbin(MXEBIN),
* spg(MXEBIN),spe(MXEBIN),espdf(MXEBIN),escdf(MXEBIN)

```

に変更する。

- data 文

```

data esbin/1.173,1.333/
data espdf/0.5,0.5/

```

を削除する。

- open 文を追加する。

```

open(6,FILE='egs5job.out',STATUS='unknown')

```

を

```

open(6,FILE='egs5job.out',STATUS='unknown')
open(2,file='co60.inp',status='unknown')

```

に変更。

- co60.inp は、線源のエネルギーとその確率密度関数で以下の内容のファイルであり、配布ファイルに含まれている。

```

1.173,1.333
0.5,0.5

```

- nsebin=2 の後に、以下を挿入する。

```

read(2,*) (esbin(i),i=1,nsebin)
read(2,*) (espdf(i),i=1,nsebin)

```

- 結果の出力部を変更する。

```

170 write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie)
FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5)

```

を

```

170 write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie)/tnum
FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5,8X,G12.5)

```

に変更する。

### 3. ucsource1.2.f を egs5run で実行する。

- Linux の場合

ユーザーコード名として、ucsource1.2 を、ユニット 4 のファイル名として ucsource を入力し、ユニット 25 には”return”を入力する。

”Does this user code read from the terminal?”に対して 1 を入力する。

- DOS の場合

```

egs5run ucsource1.2 ucsource ucsource

```

### 4. egs5job.out の光子の線源スペクトルが、1 対 1 に近い比率になっていることを確認する。

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
1.1730	MeV--	0.49710	0.0000	0.50000
1.3330	MeV--	0.50290	0.0000	0.50000

### 3.2 Ir-192 の $\gamma$ 線源

Ir-192 から放出される  $\gamma$  線のエネルギーと崩壊当たりの放出率は、以下の通りである。(アイソトープ手帳第 10 版)

Energy	Emission Rate
0.296	28.7
0.308	30.0
0.317	82.7
0.468	47.8
0.589	4.5
0.604	8.2
0.612	5.3

1. `cp ucsource1_2.f ucsource2.f`

2. `ucsource2.f` の変更

- 線源データファイルに関する `open` 文を変更する。

```
open(2,file='co60.inp',status='unknown')
```

を

```
open(2,file='ir192.inp',status='unknown')
```

に変更。

- `ir192.inp` は、線源のエネルギーとその確率密度関数で以下の内容のファイルで、配布ファイルに含まれている。

```
0.296,0.308,0.317,0.468,0.589,0.604,0.612  
0.287,0.300,0.827,0.478,0.045,0.082,0.053
```

- 線源のデータ数を変更する。<sup>1</sup>

```
nsebin=2
```

を

```
nsebin=7
```

に変更。

3. `ucsource2.f` を `egs5run` で実行する。

---

<sup>1</sup>この問題のように、配列の引数となる変数の値を変更する場合には、まずデバッガ機能を含めてコンパイル、実行を行い、配列範囲外アクセスが起きないことを確認するべきである。方法としては、UNIX 又は Cygwin の場合は、"`egs5run`" と入力するところで "`egs5run db`" と入力する。これにより、デバッガ機能を含めたコンパイルが行われる。つぎに "`egs5job.exe`" と入力して、計算を実行する。DOS の場合は、"`egs5run_db ucsource2 ucsource`" を実行する。配列範囲外アクセスが起きなければ計算は通常通り終了する。(追加的なメッセージはなにも表示されない) 配列範囲外アクセスが起きた場合には、ソースのどの行で、どの配列の何番目の要素に不正なアクセスが行われたかが表示されるので、ソースの当該部分を修正する。なお、デバッガを含めてコンパイルした場合実行速度が低下するので、デバッガの使用はプログラム変更の場合のみとする方がよい。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、ucsource2 を、ユニット 4 のファイル名として ucsource を入力し、ユニット 25 には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して 1 を入力する。
- DOS の場合  
egs5run ucsource2 ucsource ucsource

4. egs5job.out の光子の線源スペクトルが、設定した比率に近いものになっていることを確認する。

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
.29600	MeV--	0.14040	0.0000	0.13851
.30800	MeV--	0.14210	0.0000	0.14479
.31700	MeV--	0.40050	0.0000	0.39913
.46800	MeV--	0.22930	0.0000	0.23069
.58900	MeV--	0.22000E-01	0.0000	0.21718E-01
.60400	MeV--	0.39300E-01	0.0000	0.39575E-01
.61200	MeV--	0.26400E-01	0.0000	0.25579E-01

### 3.3 Sr-90-β線源

β線源は、γ線源と異なり、スペクトルは連続である。連続型の過程のサンプリングでは、一般には直接サンプリングは難しい。近似的な方法であるが、スペクトルの形が与えられている場合にもどの様な場合にも適用できる方法は、横軸(この場合は、エネルギー)を等間隔に区分し、その区間の積分値の全領域の積分値に対する割合を確率密度関数とし、乱数により対応するエネルギー区間をサンプリングし、エネルギー区間内では、一様分布として直線内挿によりエネルギーを決定する方法である。積分が困難な場合には、区間内の変化が直線であると仮定して台形公式を使用する。この場合、精度を上げるには、分点数を多くすると共に、対応する値を理論値等からできるだけ精度良く求める必要がある。

この方法を理解するために、Sr-90のβ線を例にしてサンプリングルーチンを作成する。

#### 3.3.1 ICRU Report 56 のデータを使用する場合

ICRU Report 56 には、Sr-90のβ線スペクトルが、(エネルギー/最大エネルギー)を41等分した各区分当たりの崩壊当たりのβ線数で与えられている。(次図及び表)このデータを使用してβ線のエネルギーを決定するルーチンを作成する。

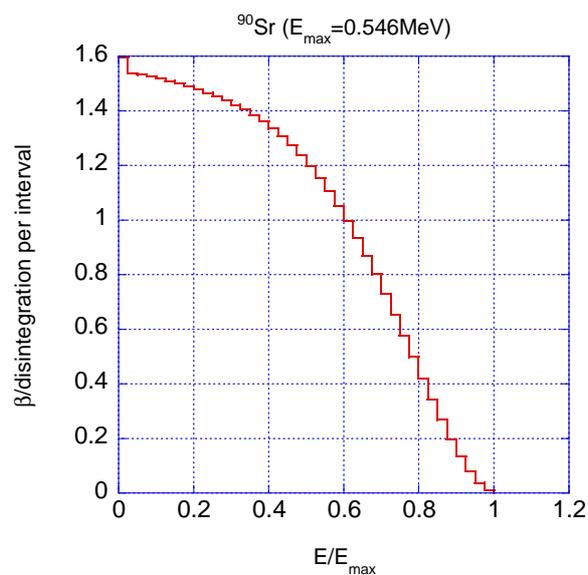


Figure 2:  $\beta$ -ray spectrum from Sr-90(ICRU Report 56).

Table 1  $\beta$ -ray spectrum from Sr-90(ICRU Report 56).

$E/E_{max}$	$\beta$ per dis. per bin	$E/E_{max}$	$\beta$ per dis per bin
0.00	1.597	0.025	1.538
0.05	1.532	0.075	1.526
0.10	1.518	0.125	1.509
0.15	1.500	0.175	1.490
0.20	1.479	0.225	1.466
0.25	1.453	0.275	1.439
0.30	1.422	0.325	1.404
0.35	1.384	0.375	1.361
0.40	1.335	0.425	1.306
0.45	1.274	0.475	1.238
0.50	1.198	0.525	1.154
0.55	1.106	0.575	1.053
0.60	0.997	0.625	0.935
0.65	0.870	0.675	0.801
0.70	0.729	0.725	0.654
0.75	0.577	0.775	0.498
0.80	0.420	0.825	0.343
0.85	0.268	0.875	0.198
0.90	0.135	0.925	0.081
0.95	0.038	0.975	0.010
1.00	0.000		

1. cp ucsource2.f ucsource3.f

2. ucsource3.f の変更

- local variable に, deltaes, emax を追加する。

```

real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,esbin(MXEBIN),
* spg(MXEBIN),spe(MXEBIN),espdf(MXEBIN),escdf(MXEBIN)

```

を

```

real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,esbin(MXEBIN),
* spg(MXEBIN),spe(MXEBIN),espdf(MXEBIN),escdf(MXEBIN),
* deltaes,emax

```

に変更。

- 線源に関する open 文を変更する。

```

open(2,file='ir192.inp',status='unknown')

```

を

```

open(2,file='sr90beta.inp',status='unknown')

```

に変更。

- sr90beta.inp は、上記の崩壊当たり各区分エネルギー当たりの  $\beta$  線の放出率であり、以下の内容のファイルで、配布ファイルに含まれている。放出率から累積分布関数 (cdf) を求めてサンプリングに使用する。

```

0.546
41
0.025
1.597,1.538 ,1.532,1.526 ,1.518,1.509 ,1.500,1.490 ,1.479,1.466 ,
1.453,1.439 ,1.422,1.404 ,1.384,1.361 ,1.335,1.306 ,1.274,1.238 ,
1.198,1.154 ,1.106,1.053 ,0.997,0.935 ,0.870,0.801 ,0.729,0.654 ,
0.577,0.498 ,0.420,0.343 ,0.268,0.198 ,0.135,0.081 ,0.038,0.010 ,
0.000

```

0.546 は  $\beta$  線の最大エネルギー ( $E_{max}$ , MeV)、41 は分点数、0.025 は、 $E/E_{max}$  の区幅である。

- 線源データファイルから nsebin を読み込み部を変更する。

```

nsebin=7                                ! Number of source energy bins
read(2,*) (esbin(i),i=1,nsebin)
read(2,*) (espdf(i),i=1,nsebin)

```

を

```

read(2,*) emax                          ! Maximum beta-ray energy
read(2,*) nsebin                         ! Number of source energy bins
read(2,*) deltaes                        ! Source energy bin width in MeV
read(2,*) (espdf(i),i=1,nsebin)

```

に変更。

- エネルギービンの値を計算する文を追加する。

```

do ie=1,nsebin
  tnum=tnum+espdf(ie)
end do

```

を

```

do ie=1,nsebin
  esbin(ie)=(ie-1)*deltaes*emax
  tnum=tnum+espdf(ie)
end do

```

に変更。

- cdf 作成の部分を変更する。

```

escdf(1)=espdf(1)/tnum
do ie=2,nsebin
  escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie)/tnum
end do

```

を

```

escdf(1)=0.0
do ie=2,nsebin
  escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie-1)/tnum
end do

```

に変更。

- 線源粒子の種類を変更する。

```

iqin=0          ! Incident charge - photons

```

を

```

iqin=-1         ! Incident charge - electrons

```

に変更。

- ヒストリー数を増やす。

```

ncases=10000

```

を

```

ncases=100000

```

に変更。

- 線源エネルギーのサンプリング部を変更する。

```

do ie=1,nsebin
  if(rnnow.le.escdf(ie)) go to 1000
end do
1000 ekein=esbin(ie)

```

を。

```

do ie=2,nsebin
  if(rnnow.le.escdf(ie)) go to 1000
end do
1000 ekein=esbin(ie-1)+(rnnow-escdf(ie-1))*(esbin(ie)-esbin(ie-1))
*      /(escdf(ie)-escdf(ie-1))

```

に修正。

- 結果の出力部分を変更する。

```

do ie=1,nsebin
! -----
! Gamma spectrum per source
! -----
!   spg(ie)=spg(ie)/ncount
! -----
! Electron spectrum per source
! -----
!   spe(ie)=spe(ie)/ncount
! -----
write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie)/tnum
170  FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5,8X,G12.5)
end do

```

を

```

do ie=2,nsebin
!
! -----
! Gamma spectrum per source
! -----
!   spg(ie)=spg(ie)/ncount
! -----
! Electron spectrum per source
! -----
!   spe(ie)=spe(ie)/ncount
!
!   write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie-1)/tnum
170   FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5,8X,G12.5)
end do

```

に修正。

3. `ucsource3.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource3` を、ユニット4のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット25には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して1を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource3 ucsource`

4. `egs5job.out` の電子の線源スペクトルが、設定した比率に近いものになっていることを確認する。

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
.13650E-01	MeV--	0.0000	0.38520E-01	0.39108E-01
.27300E-01	MeV--	0.0000	0.37330E-01	0.37663E-01
.40950E-01	MeV--	0.0000	0.36750E-01	0.37516E-01
.54600E-01	MeV--	0.0000	0.37710E-01	0.37369E-01
.68250E-01	MeV--	0.0000	0.37060E-01	0.37173E-01
.81900E-01	MeV--	0.0000	0.36010E-01	0.36953E-01
.95550E-01	MeV--	0.0000	0.36990E-01	0.36732E-01
.10920	MeV--	0.0000	0.36450E-01	0.36487E-01
.12285	MeV--	0.0000	0.37110E-01	0.36218E-01
.13650	MeV--	0.0000	0.35230E-01	0.35900E-01
.15015	MeV--	0.0000	0.35310E-01	0.35581E-01
.16380	MeV--	0.0000	0.34350E-01	0.35239E-01
.17745	MeV--	0.0000	0.35240E-01	0.34822E-01
.19110	MeV--	0.0000	0.34100E-01	0.34381E-01
.20475	MeV--	0.0000	0.33260E-01	0.33892E-01
.21840	MeV--	0.0000	0.34070E-01	0.33328E-01
.23205	MeV--	0.0000	0.32810E-01	0.32692E-01
.24570	MeV--	0.0000	0.32090E-01	0.31982E-01
.25935	MeV--	0.0000	0.31810E-01	0.31198E-01
.27300	MeV--	0.0000	0.30760E-01	0.30316E-01
.28665	MeV--	0.0000	0.29310E-01	0.29337E-01
.30030	MeV--	0.0000	0.28920E-01	0.28259E-01
.31395	MeV--	0.0000	0.27620E-01	0.27084E-01
.32760	MeV--	0.0000	0.25490E-01	0.25786E-01
.34125	MeV--	0.0000	0.23880E-01	0.24415E-01
.35490	MeV--	0.0000	0.23650E-01	0.22896E-01
.36855	MeV--	0.0000	0.21360E-01	0.21305E-01
.38220	MeV--	0.0000	0.19210E-01	0.19615E-01
.39585	MeV--	0.0000	0.18200E-01	0.17852E-01
.40950	MeV--	0.0000	0.15610E-01	0.16015E-01
.42315	MeV--	0.0000	0.14610E-01	0.14130E-01
.43680	MeV--	0.0000	0.12170E-01	0.12195E-01
.45045	MeV--	0.0000	0.10670E-01	0.10285E-01
.46410	MeV--	0.0000	0.84100E-02	0.83995E-02
.47775	MeV--	0.0000	0.63300E-02	0.65628E-02
.49140	MeV--	0.0000	0.50100E-02	0.48487E-02

.50505	MeV--	0.0000	0.33400E-02	0.33059E-02
.51870	MeV--	0.0000	0.21200E-02	0.19835E-02
.53235	MeV--	0.0000	0.88000E-03	0.93055E-03
.54600	MeV--	0.0000	0.25000E-03	0.24488E-03

### 3.3.2 RADAR - The Decay Data のデータを使用する場合

RADAR - The Decay Data (<http://www.doseinfo-radar.com/RADARDecay.html>) には、多くの  $\beta$  線スペクトルデータが示されている。(以下、「RADAR データ」という。) RADAR データでは、20 等分したエネルギー区分に対する確率密度 (PDF:Probability distribution function) が与えられている。このデータを使用して Sr-90 の  $\beta$  線のエネルギーを決定するルーチンを作成する。

Table 2  $\beta$ -ray spectrum from RADAR.

$E_{min}$	$E_{max}$	PDF
0.0000	0.0273	7.79E-02
0.0273	0.0546	7.60E-02
0.0546	0.0819	7.50E-02
0.0819	0.1092	7.40E-02
0.1092	0.1365	7.30E-02
0.1365	0.1638	7.17E-02
0.1638	0.1911	7.01E-02
0.1911	0.2184	6.80E-02
0.2184	0.2457	6.53E-02
0.2457	0.2730	6.19E-02
0.2730	0.3003	5.78E-02
0.3003	0.3276	5.27E-02
0.3276	0.3549	4.68E-02
0.3549	0.3822	4.01E-02
0.3822	0.4095	3.27E-02
0.4095	0.4368	2.48E-02
0.4368	0.4641	1.71E-02
0.4641	0.4914	9.75E-03
0.4914	0.5187	4.28E-03
0.5187	0.5460	1.01E-03

1. `cp ucsource3.f ucsource3_1.f`

2. `ucsource3_1.f` の変更

- `local variable` の `,deltaes,emax` を `beint` に変更する。`beint` は、崩壊当たりに放出される  $\beta$  線数である。

\* `deltaes,emax`

を

\* `beint`

に変更。

- `local variable` の `integer` に `iebeta` を追加する。

\* `i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin`

を

```
* i, icas, idin, ie, ifti, ifto, ii, j, k, n, nd, ner, nsebin, ibeta
```

に変更。

- 線源情報に関する character 文を追加する。

```
character*24 medarr(MXMED)
```

を

```
character*24 medarr(MXMED)  
character*20 soinf
```

に変更。

- 線源に関する open 文を変更する。

```
open(2, file='sr90beta.inp', status='unknown')
```

を

```
open(2, file='Sr-90.dat', status='unknown')
```

に変更。

- Sr-90.dat は、以下の内容のファイルで、配布ファイルに含まれている。

```
Sr-90 Beta-  
-1, 1.0000  
0.0273, 7.79E-02  
0.0546, 7.60E-02  
0.0819, 7.50E-02  
0.1092, 7.40E-02  
0.1365, 7.30E-02  
0.1638, 7.17E-02  
0.1911, 7.01E-02  
0.2184, 6.80E-02  
0.2457, 6.53E-02  
0.2730, 6.19E-02  
0.3003, 5.78E-02  
0.3276, 5.27E-02  
0.3549, 4.68E-02  
0.3822, 4.01E-02  
0.4095, 3.27E-02  
0.4368, 2.48E-02  
0.4641, 1.71E-02  
0.4914, 9.75E-03  
0.5187, 4.28E-03  
0.5460, 1.01E-03
```

-1 は、崩壊に伴い放出される  $\beta$  線が電子であることを示している。陽電子の場合は、1 となる。

- 線源データファイルから nsebin を読み込み部とその処理に関する部分を変更する。

```
read(2,*) emax ! Maximum beta-ray energy RADAR  
read(2,*) nsebin ! Number of source energy bins  
read(2,*) deltaes ! Source energy bin width in MeV  
read(2,*) (espdf(i), i=1, nsebin)  
!-----  
! Calculate cdf from pdf  
!-----  
tnum=0.D0  
do ie=1, nsebin  
 esbin(ie)=(ie-1)*deltaes*emax  
 tnum=tnum+espdf(ie)  
end do  
  
escdf(1)=0.0  
do ie=2, nsebin
```

```

    escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie-1)/tnum
end do
iqin=-1          ! Incident charge - electrons
ekein=esbin(nsebin) ! Maximum kinetic energy

```

を

```

nsebin=21          ! Number of bin for beta-ray spectrum
esbin(1)=0.d0
espdf(1)=0.d0
read(2,'(A20)') soinf          ! Source information
read(2,*) ibeta, beint        ! Charge of beta-ray, emitted beta per decay
do ie=2,nsebin
  read(2,*) esbin(ie),espdf(ie) ! Upper bin and pdf
end do
!-----
! Calculate cdf from pdf
!-----
do ie=2,nsebin
  escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie)/tnum
end do

iqin=ibeta          ! Incident charge - electrons
ekein=esbin(nsebin) ! Maximum kinetic energy

```

に変更。

- 結果の出力部分を変更する。

```
write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie-1)/tnum
```

を

```
write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie)
```

に変更。

### 3. ucsource3\_1.f を egs5run で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、ucsource3\_1 を、ユニット4のファイル名として ucsource を入力し、ユニット25には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して1を入力する。
- DOS の場合  
egs5run ucsouce3\_1 ucsource

### 4. egs5job.out の電子の線源スペクトルが、設定した比率に近いものになっていることを確認する。

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
.27300E-01	MeV--	0.0000	0.77120E-01	0.77905E-01
.54600E-01	MeV--	0.0000	0.75250E-01	0.76005E-01
.81900E-01	MeV--	0.0000	0.74090E-01	0.75005E-01
.10920	MeV--	0.0000	0.74380E-01	0.74004E-01
.13650	MeV--	0.0000	0.73020E-01	0.73004E-01
.16380	MeV--	0.0000	0.70870E-01	0.71704E-01
.19110	MeV--	0.0000	0.69590E-01	0.70104E-01
.21840	MeV--	0.0000	0.68480E-01	0.68004E-01
.24570	MeV--	0.0000	0.65610E-01	0.65304E-01
.27300	MeV--	0.0000	0.62860E-01	0.61904E-01
.30030	MeV--	0.0000	0.58070E-01	0.57803E-01
.32760	MeV--	0.0000	0.53090E-01	0.52703E-01
.35490	MeV--	0.0000	0.47070E-01	0.46803E-01
.38220	MeV--	0.0000	0.39880E-01	0.40102E-01
.40950	MeV--	0.0000	0.33350E-01	0.32702E-01

.43680	MeV--	0.0000	0.24820E-01	0.24801E-01
.46410	MeV--	0.0000	0.17320E-01	0.17101E-01
.49140	MeV--	0.0000	0.97500E-02	0.97506E-02
.51870	MeV--	0.0000	0.43600E-02	0.42803E-02
.54600	MeV--	0.0000	0.10200E-02	0.10101E-02

## 4 実習課題 2 : 線源位置

半径 1.5cm から 4cm の領域に一様に分布している面線源の場合に、線源位置をサンプリングするルーチンを作成する。

### 4.1 直接サンプリング

半径  $R_0$  から  $R_1$  の領域に一様に分布している面線源の場合の半径の分布に関する確率密度関数 (pdf) は、次のようになる。

$$f(r)dr = c \times 2\pi r dr$$

$$\int_{R_0}^{R_1} f(\xi)d\xi = c\pi[\xi^2]_{R_0}^{R_1} = c\pi[R_1^2 - R_0^2] = 1$$

$$c = \frac{1}{\pi(R_1^2 - R_0^2)} \rightarrow f(r)dr = \frac{2rdr}{R_1^2 - R_0^2}$$

線源位置の半径 ( $r$ ) は、以下の式を解くことにより決定する。

$$\eta = \int_{R_0}^r f(\xi)d\xi = \frac{r^2 - R_0^2}{R_1^2 - R_0^2}$$

$$r = \sqrt{R_0^2 + \eta(R_1^2 - R_0^2)}$$

$x$  と  $y$  の位置は、 $\phi$  を、0 から  $2\pi$  の一様分布から決定し、

$$x = r \cos \phi, \quad y = r \sin \phi$$

により決定する。具体的なプログラムは、以下のようにする。

1. `cp ucsource.f ucsource4.f`

2. `ucsource4.f` の変更

- `local variable` に `r02,r12,phai` を追加する。

```
* esbin(1),spg(1),spe(1)
```

を

```
* esbin(1),spg(1),spe(1),r02,r12,phai,rr0
```

に変更する。

- 線源の `weight` 設定後に、`r01,r12` の設定文を挿入する。

```
wtin=1.0          ! Weight = 1 since no variance reduction used
```

を

```
wtin=1.0          ! Weight = 1 since no variance reduction used
```

```
r02=1.5*1.5
r12=4.0*4.0
```

に変更。

- 線源位置のサンプリングを挿入する。

```
! -----
! Determine source position
! -----
```

を

```
! -----
! Determine source position
! -----
call randomset(rnnow)
rr0=sqrt(r02+rnnow*(r12-r02))
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
xin=rr0*cos(phai)
yin=rr0*sin(phai)
```

に変更。

3. `ucsource4.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource4` を、ユニット4のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット25には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して1を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource4 ucsource ucsource`

4. CGView で、座標軸を X-Y にし、軸を若干傾け、半径 1.5-4.0 の領域から光子が出ていることを確認する。

## 4.2 Rejection 法

Rejection 法では、 $x$  及び  $y$  をそれぞれ -1 から 1 の範囲の正方形内で一様にサンプリングし、 $R_0/R_1 \leq r = \sqrt{x^2 + y^2} \leq 1.0$  の場合には  $x * R_1$  及び  $y * R_1$  を線源位置とし、それ以外の場合は、サンプリングをやり直す (新たな乱数を用いてサンプリングすることにより、位置を決定する。具体的なプログラムは、以下のようにする。

1. `cp ucsource4.f ucsource5.f`

2. `ucsource5.f` の変更

- `local variable` を変更する。

```
* esbin(1),spg(1),spe(1),r02,r12,phai,rr0
```

を

```
* esbin(1),spg(1),spe(1),r0,r1,rr0
```

に変更。

- `r02,r12` の設定を `r0,r1` の設定に変更する。

```
r02=1.5*1.5
r12=4.0*4.0
```

を

```
r0=1.5
r1=4.0
```

に変更。

- 線源位置のサンプリング方法を変更する。

```
! -----  
! Determine source position  
!  
call randomset(rnnow)  
rr0=sqrt(r02+rnnow*(r12-r02))  
call RANDOMSET(rnnow)  
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)  
xin=rr0*cos(phai)  
yin=rr0*sin(phai)
```

を

```
! -----  
! Determine source position  
!  
1100 call randomset(rnnow)  
xi0=2.0*rnnow-1.0  
call randomset(rnnow)  
yi0=2.0*rnnow-1.0  
rr0=sqrt(xi0*xi0+yi0*yi0)  
if (rr0.gt.1.0.or.rr0.lt.r0/r1) go to 1100  
xin =r1*xi0  
yin =r1*yi0
```

3. `ucsource5.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource5` を、ユニット4のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット25には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して1を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource5 ucsource ucsource`

4. CGView で、直接サンプリングと同じように半径1.5-4cmの領域から光子が出ていることを確認する。

## 5 実習課題4：線源方向 ( $2\pi$ )

### 5.1 直接サンプリング

等方線源の場合、Z方向の方向余弦である  $w$  の確率密度関数は、以下の様になる。

$$f(\theta)d\theta = c \times 2\pi \sin \theta d\theta \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$$

$$w = \cos \theta$$

とすると

$$\frac{dw}{d\theta} = -\sin \theta \rightarrow g(w) = -c \times 2\pi dw$$

$$\int_1^{-1} g(w)dw = -c \times 2\pi \times (-2) = 1$$

から

$$c = \frac{1}{4\pi} \rightarrow g(w)dw = -\frac{1}{2}dw$$

となる。w は、以下の式を解くことにより決定することができる。

$$\eta = \int_1^w g(w)dw = \frac{1}{2}(1-w) \rightarrow w = 1 - 2\eta$$

$1 - 2\eta$  と  $2\eta - 1$  は、等価なので、どちらを使用しても良い。この問題のように  $\cos \theta$  が正の領域のみに限られる等方線源の場合は、

$$\int_1^0 g(w)dw = -c \times 2\pi \times (-1) = 1$$

から

$$c = \frac{1}{2\pi} \rightarrow g(w)dw = -dw$$

となるので、

$$\eta = \int_1^w g(w)dw = w \rightarrow w = 1 - \eta$$

$1 - \eta$  と  $\eta$  は、等価なので、 $w = \eta$  とする。実際のプログラムは、以下の様にする。

1. cp ucsource.f ucsource6.f

2. ucsource6.f の変更

- local variable に,phai,rr0 を追加する。

```

real*8                                     ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1)

```

を

```

real*8                                     ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0

```

に変更。

- 線源の方向をサンプリングする文を挿入する。

```

! -----
! Determine source direction
! -----

```

を

```

! -----
! Determine source direction
! -----
call randomset(rnnow)
win=rnnow
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
uin=dsqrt(1.0-win*win)*cos(phai)
vin=dsqrt(1.0-win*win)*sin(phai)

```

- 方向余弦の規格化

– サンプリングした方向余弦は、規格化されていなければならない。

(xin\*xin+yin\*yin+win\*win=1.0)

この例のやり方の場合、規格化がされているが、ユーザーが自分のやり方で線源の方向を決定する場合には、規格化されているかどうかを確認する必要がある。

call shower の前の

```

! -----
! Verify the normarization of source direction cosines
! -----
if(abs(uin*uin+vin*vin+win*win-1.0).gt.1.e-6) then
  write(6,fmt="( ' Following source direction cosines are not',
1    ' normarized.',3e12.5)")uin,vin,win
  stop
end if

```

が、このためのルーティンである。

3. `ucsource6.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource6` を、ユニット 4 のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット 25 には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して 1 を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource6 ucsource`

4. CGView で、光子が  $2\pi$  方向に等方的に発生していることを確認する。

## 5.2 Rejection 法

Rejection 法では、 $x, y$  及び  $z$  をそれぞれ -1 から 1 の立方体中で一様にサンプリングし、サンプリングされた位置が半径 1 の球の内側の場合は、原点からサンプリングされた点に向かう方向を方向余弦とする。球の外側の場合は、サンプリングをやり直す。実際のプログラムは、以下のようになる。

1. `cp ucsource6.f ucsource7.f`

2. `ucsource7.f` の変更

- 線源の方向をサンプリングする部分を修正する。

```

! -----
! Determine source direction
! -----
call randomset(rnnow)
win=rnnow
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
uin=dsqrt(1.0-win*win)*cos(phai)
vin=dsqrt(1.0-win*win)*sin(phai)

```

を

```

! -----
! Determine source direction
! -----
1300 call randomset(rnnow)
      zi0=rnnow
      call randomset(rnnow)
      xi0=2.0*rnnow-1.0
      call randomset(rnnow)
      yi0=2.0*rnnow-1.0
      rr0=dsqrt(xi0*xi0+yi0*yi0+zi0*zi0)
      if(rr0.gt.1.0) go to 1300
      win = zi0/rr0
      uin = xi0/rr0
      vin = yi0/rr0

```

3. `ucsource7.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource7` を、ユニット 4 のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット 25 には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して 1 を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource7 ucsource`

4. CGView で、光子が直接サンプリングの場合と同じように  $2\pi$  方向に等方的に発生していることを確認する。

## 6 実習課題 5 : 等方円柱線源

リージョン 3 の円柱中に、1.235 MeV の  $\gamma$  線を放出する放射性同位元素が一様に分布しているとする。線源の方向は、Rejection 法で決定する。

### 6.1 直接サンプリング

1. `cp ucsource7.f ucsource8.f`

2. `ucsource8.f` の変更

- local variable に、`shl,shh,shr` を追加する。

```
real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0
```

を

```
real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0,shl,shh,shr
```

に変更。

- 線源情報 (Z の最小、最大値及び半径の値) を設定する。

```
wtin=1.0                                ! Weight = 1 since no variance reduction used
```

を

```
wtin=1.0                                ! Weight = 1 since no variance reduction used
```

```
! Define source information
shl=3.d0    ! Minimum Z
shh=5.d0    ! Maximum Z
shr=2.d0    ! Source radius
```

に変更。

- $4\pi$  方向にするために、角度のサンプリングで `zi0` を -1 から 1 の領域でサンプリングするように変更する。

```
zi0=rnnow
```

を

```
zi0=2.0*rnnow-1.0
```

に変更。

- 線源の位置をサンプリングする文を挿入する。

```

! -----
! Determine source position
! -----
を

! -----
! Determine source position
! -----
call randomset(rnnow)
call randomset(rnnow)
zin=shl+rnnow*(shh-shl)    ! Determine Z-position
call randomset(rnnow)
rr0=shr*dsqrt(rnnow)      ! Determine r-position
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
xin=rr0*cos(phai)        ! Determine X-position
yin=rr0*sin(phai)       ! Determine Y-position

```

に変更。

3. `ucsource8.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource8` を、ユニット 4 のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット 25 には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して 1 を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource8 ucsource`

4. CGView で、光子がリージョン 3 の円柱から  $4\pi$  方向に等方的に発生していることを確認する。

## 6.2 Rejection 法

線源の形状が複雑な場合には、直接法を適用することは難しい。この様な場合、線源を内包する直方体を定義し、直方体内部に一様に分布しているとして位置をサンプリングし、得られた位置が線源リージョンでない場合には、サンプリングをやり直す **rejection** 法を使用する。設定した直方体中で線源領域外の部分が多い場合には、若干サンプリング効率が落ちるが、どのような形状にも適用することが出来る。サンプリングされた座標がどのリージョンに属するかは、平板、円筒や球を組み合わせて形状を作成した場合には、作成した形状の記述により、リージョンを求める文を記述する必要がある。`ucsource.f` の様に、CG で形状を記述している場合には、サンプリングした座標が、どのリージョンに属するかを調べる **subroutine srzone** を使うことにより求めることが出来る。

1. `cp ucsource8.f ucsource9.f`

2. `ucsource8.f` の変更

- **local variable** の `,shl,shh,shr` を変更する。

```

real*8                                     ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0,shl,shh,shr
を

real*8                                     ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0,
* sxmin,sxmax,symin,symax,szmin,szmax

```

に変更。

- 直方体の情報 (X, Y 及び Z の最小値と最大値) を設定する。

```
! Define source information
  shl=3.d0 ! Minimum Z
  shh=5.d0 ! Maximum Z
  shr=2.d0 ! Source radius
```

を

```
! Define a rectangular parallelepiped for uniform sampling.
  sxmin=-2.d0
  sxmax=2.d0
  symin=-2.d0
  symax=2.d0
  szmin=3.d0
  szmax=5.d0
```

に変更。

- 線源の位置をサンプリングする文と `call srzone` でリージョン番号を求めた後の処理を修正する。`srzone` は、`xin`, `yin`, `zin` の位置のリージョン番号を `irinn` で示す `subroutine` である。修正前では、線源のリージョン番号 `irinn` を求めるだけの役割であるが、Rejection 法で使用する場合には、`irinn` が求まった後、このリージョンが線源のリージョンであるかどうかを判断し、円柱内の線源以外のリージョンの場合は、サンプリングをやり直す。`subroutine rstnxt` は、リージョン判定を効率よく行うために、現在のリージョンの接するリージョンを求める `subroutine` である。

具体的には、

```
! -----
! Determine source position
! -----
call randomset(rnnow)
zin=shl+rnnow*(shh-shl) ! Determine Z-position
call randomset(rnnow)
rr0=shr*dsqrt(rnnow) ! Determine r-position
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
xin=rr0*cos(phai) ! Determine X-position
yin=rr0*sin(phai) ! Determine Y-position

! -----
! Get source region from cg input data
! -----

if(irin.le.0.or.irin.gt.nreg) then
  call srzone(xin,yin,zin,iqin+2,0,irinn)
  if(irinn.le.0.or.irinn.ge.nreg) then
    write(6,fmt="( ' Stopped in MAIN. irinn = ',i5)")irinn
    stop
  end if
  call rstnxt(iqin+2,0,irinn)
else
  irinn=irin
end if
```

を

```
! -----
! Determine source position
! -----
1400 call randomset(rnnow)
zin=szmin+rnnow*(szmax-szmin) ! Determin Z-position
call randomset(rnnow)
xin=sxmin+rnnow*(sxmax-sxmin) ! Determin X-position
call randomset(rnnow)
yin=symin+rnnow*(symax-symin) ! Determin Y-position
```

```

! -----
! Get source region from cg input data
! -----

if(irin.le.0.or.irin.gt.nreg) then
  call srzone(xin,yin,zin,iqin+2,0,irinn)
  if(irinn.le.0.or.irinn.ge.nreg) then
    write(6,fmt="( ' Stopped in MAIN. irinn = ',i5)")irinn
    stop
  end if
!   If a sampled position is outside the source region,
!   re-sample a position.
  if(irinn.ne.3) go to 1400
  call rstnxt(iqin+2,0,irinn)
else
  irinn=irin
end if

```

に変更。

この例では、線源のリージョンが3なので、線源リージョンの判定は、`if(irinn.ne.3) go to 1400` となっているが、当然のことながらこの条件は、線源の領域に対応して変更する必要がある。例えば、線源の領域がリージョン4と6にまたがっている場合には、

```
if(irinn.ne.4.and.irinn.ne.6) go to 1400
```

とする。

3. `ucsource9.f` を `egs5run` で実行する。

- Linux の場合  
ユーザーコード名として、`ucsource9` を、ユニット4のファイル名として `ucsource` を入力し、ユニット25には”return”を入力する。  
”Does this user code read from the terminal?”に対して1を入力する。
- DOS の場合  
`egs5run ucsource9 ucsource`

4. CGView で、光子がリージョン3の円柱から  $4\pi$  方向に等方的に発生していることを確認する。

**Practices of  
How to Write Source Routine  
(English Parts)**

# 1 Introduction

This "Lecture Note" was written for beginners of egs5 to understand how to write source routine, which is an important routine in particle transport with Monte Carlo method, via various practices. A practice related to "Isotropic right cylinder volume source" is added to the original one published as KEK Internal 2011-7 reflecting the increase of the request from users.

## 2 Outlines of user code `ucsource.f`

The geometry used in `ucsource.f` is cylindrical with cg, as shown in Fig.1. All regions are set to vacuum (0) to test the source. A 1.253 MeV photon pencil beam enters the cylinder from  $Z=-5\text{cm}$  along the  $Z$ -axis.

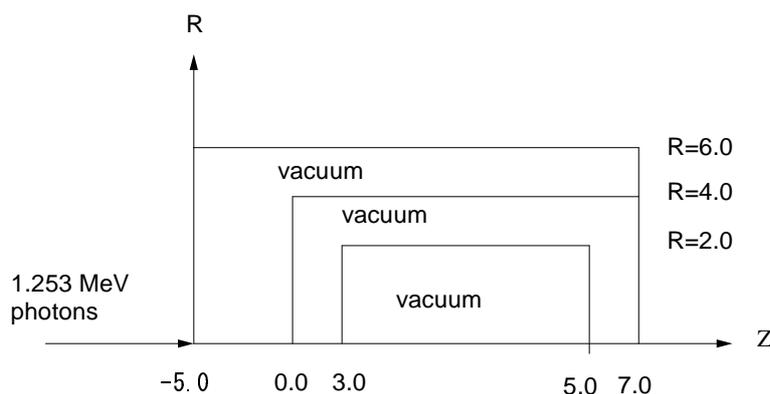


Figure 1: Geometry of `ucsource.f`

## 3 Practice 1: Source energy

### 3.1 $\gamma$ -rays from Co-60

Photons of 1.173MeV and 1.333MeV are emitted with equal probability. There are three ways. (1) use of `if` statement, (2) use of `data` statement and (3) use of data file.

#### 3.1.1 Use of `if` statement

1. `cp ucsource.f ucsource1_0.f`

In the case of DOS, the `copy ucsource.f ucsource1_0.f` or copy function of Windows must be used.

2. Modify `ucsource1_0.f` as follows:

- Increase the number of source energy bins as follows.

Change

```
* esbin(1),spg(1),spe(1)
```

to

```
* esbin(2),spg(2),spe(2)
```

Change

```

nsebin=1

to

nsebin=2

```

- Modify the maximum electron kinetic energy used. That is change

```

ekein=1.253      ! Kinetic energy

to

ekein=1.333      ! Kinetic energy

```

- Modify the photon energy for each energy bin as follows. Change

```

esbin(1)=ekein

to

esbin(1)=1.173
esbin(2)=1.333

```

- Modify statements for source energy sampling as follows. Change

```

ekein = ekein
spg(1)=spg(1)+1.0

to

call randomset(rnnow)
if(rnnow.le.0.5) then
  ekein = 1.173
  spg(1)=spg(1)+1.0
else
  ekein = 1.333
  spg(2)=spg(2)+1.0
end if

```

3. Run `ucsource1_0.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource1_0` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use `egs5run ucsource1_0 ucsource`

4. Check the sampled source photons spectrum in `egs5job.out`. The following is an example of the result.

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
1.1730	MeV--	0.49710	0.0000	
1.3330	MeV--	0.50290	0.0000	

### 3.1.2 Use of data statement

1. `cp ucsource1_0.f ucsource1_1.f`

2. Modify `ucsource1_1.f` as follows:

- Add "espdf(2)" and "escdf(2)" as local variables.

Change

```
      real*8                                ! Local variables
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
      * esbin(2),spg(2),spe(2)
```

to

```
      real*8                                ! Local variables
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
      * esbin(2),spg(2),spe(2),espdf(2),escdf(2)
```

- Insert data statements for source  $\gamma$ -ray energies and their emission probabilities.

Change

```
      integer
      * i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin
```

to

```
      integer
      * i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin

      data esbin/1.173,1.333/
      data espdf/0.5,0.5/
```

- Add statements to obtain cumulative distribution functions (cdf) after `nsebin=2`.

Change

```
      nsebin=2
```

to

```
      nsebin=2
!-----
!   Calculate cdf from pdf
!-----
      tnum=0.D0
      do ie=1,nsebin
         tnum=tnum+espdf(ie)
      end do

      escdf(1)=espdf(1)/tnum
      do ie=2,nsebin
         escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie)/tnum
      end do
```

- Modify the maximum electron kinetic energy used as follows.

Change

```
      ekein=1.333          ! Kinetic energy
```

to

```
      ekein=esbin(nsebin) ! Maximum kinetic energy
```

- Delete the following two lines.

```
      esbin(1)=1.173
      esbin(2)=1.333
```

- Modify the source energy sampling routine.

That is, change

```

! -----
! Determine source energy
! -----
call randomset(rnnow)
if(rnnow.le.0.5) then
  ekein = 1.173
  spg(1)=spg(1)+1.0
else
  ekein = 1.333
  spg(2)=spg(2)+1.0
end if

to

! -----
! Determine source energy
! -----
call randomset(rnnow)
do ie=1,nsebin
  if(rnnow.le.escdf(ie)) go to 1000
end do
1000 ekein=esbin(ie)
      if(iqin.eq.0) then
          spg(ie)=spg(ie)+1.0
      else
          spe(ie)=spe(ie)+1.0
      end if

```

3. Run `ucsource1_1.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource1_1` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use `egs5run ucsource1_1 ucsource`

4. Check the sampled source photons spectrum in `egs5job.out`.

An example of this result is as follows.

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
1.1730	MeV--	0.49710	0.0000	
1.3330	MeV--	0.50290	0.0000	

### 3.1.3 Use of data file.

1. `cp ucsource1_1.f ucsource1_2.f`
2. Modify `ucsource1_2.f` as follows:

- Modify the local variables

```

      real*8
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
      * esbin(2),spg(2),spe(2),espdf(2),escdf(2)
! Local variables

to

```

```

      real*8                                ! Local variables
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,esbin(MXEBIN),
      * spg(MXEBIN),spe(MXEBIN),espdf(MXEBIN),escdf(MXEBIN)

```

- Delete the following data statements.

```

      data esbin/1.173,1.333/
      data espdf/0.5,0.5/

```

- Add an open statement for source data file.

Change

```

      open(6,FILE='egs5job.out',STATUS='unknown')

```

to

```

      open(6,FILE='egs5job.out',STATUS='unknown')
      open(2,file='co60.inp',status='unknown')

```

- `co60.inp` is the data file including source photon energies and their probability distribution functions (pdfs) constituted by the following data. In addition, `co60.inp` is included in the distribution files

```

      1.173,1.333
      0.5,0.5

```

- Insert the following statements after `nsebin=2`.

```

      read(2,*) (esbin(i),i=1,nsebin)
      read(2,*) (espdf(i),i=1,nsebin)

```

- Modify the output statement for the obtained results.

Change

```

      write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie)
170      FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5)

```

to

```

      write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie)/tnum
170      FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5,8X,G12.5)

```

### 3. Run `ucsource1_2.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource1_2` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use `egs5run ucsource1_2 ucsource`

### 4. Check the sampled source photons spectrum in `egs5job.out`.

An example of this result is as follows.

Upper energy		particles/source		
		Gamma	Electron	pdf
1.1730	MeV--	0.49710	0.0000	0.50000
1.3330	MeV--	0.50290	0.0000	0.50000

### 3.2 $\gamma$ -rays from Ir-192

$\gamma$ -ray energies and their emission probabilities per decay from Ir-192 are as follows.

Energy	Emission Rate
0.296	28.7
0.308	30.0
0.317	82.7
0.468	47.8
0.589	4.5
0.604	8.2
0.612	5.3

1. `cp ucsourc1_2.f ucsourc2.f`

2. Modify `ucsoure2.f` as follows:

- Modify the `open` statement for the source data file.

That is, change

```
open(2,file='co60.inp',status='unknown')
```

to

```
open(2,file='ir192.inp',status='unknown')
```

- `ir192.inp` is the data file including source photon energies and their pdf constituted by the following data and included in the distribution files.

```
0.296,0.308,0.317,0.468,0.589,0.604,0.612  
0.287,0.300,0.827,0.478,0.045,0.082,0.053
```

- Modify the number of  $\gamma$ -ray energies.<sup>1</sup>

Change

```
nsebin=2
```

to

```
nsebin=7
```

3. Run `ucsourc2.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsourc2` as the user code; enter `ucsourc` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".

---

<sup>1</sup>If it is necessary to change the value of the argument, you must check the -out of bound- error by running `egs5` with the debug option as follows. In the case of Unix or Cygwin, type "`egs5run db`" instead of "`egs5run`". Next, execute the programme by using "`egs5job.exe`". In the case of DOS, execute "`egs5run_db ucsourc2 ucsourc`".

Modify `egs5run.bat` to use the debug mode, and save as `egs5run_db.bat`.

If the "out of bound error" occurs, the line number and argument causing error are displayed. Running `egs5` with the debug option requires more CPU time than usual, and is therefore used only for this type of check.

- In the case of DOS, use  
egs5run ucsource2 ucsource

4. Check the sampled source photons spectrum in `egs5job.out`. An example of this result is as follows.

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
.29600	MeV--	0.14040	0.0000	0.13851
.30800	MeV--	0.14210	0.0000	0.14479
.31700	MeV--	0.40050	0.0000	0.39913
.46800	MeV--	0.22930	0.0000	0.23069
.58900	MeV--	0.22000E-01	0.0000	0.21718E-01
.60400	MeV--	0.39300E-01	0.0000	0.39575E-01
.61200	MeV--	0.26400E-01	0.0000	0.25579E-01

### 3.3 $\beta$ -rays from Sr-90

The electron spectrum of  $\beta$ -decay is continuous and different from that of  $\gamma$ -decay. It is generally difficult to apply the direct method for sampling continuous probability. Furthermore, this is an approximate method but can be applied as follows to any case if the shape of the spectrum is given:

- Divide the energy of  $\beta$ -rays in equal n-th bins.
- Use the fraction of the integration of each energy bin to the integration of the entire energy region as a pdf.
- Sample the bin by cdf created from pdf and a random number.
- Determine energy supposing the probability is uniform within each energy bin.

The followings are the sampling routines for determining the source *beta*-ray energy from Sr-90.

#### 3.3.1 Using ICRU Report 56 data

ICRU Report 56 provides  $\beta$ -ray spectrum of typical radioisotopes in the form of numbers of  $\beta$ -rays per bin per disintegrations. Fig.2 and Table 1 illustrate the  $\beta$ -ray of Sr-90.

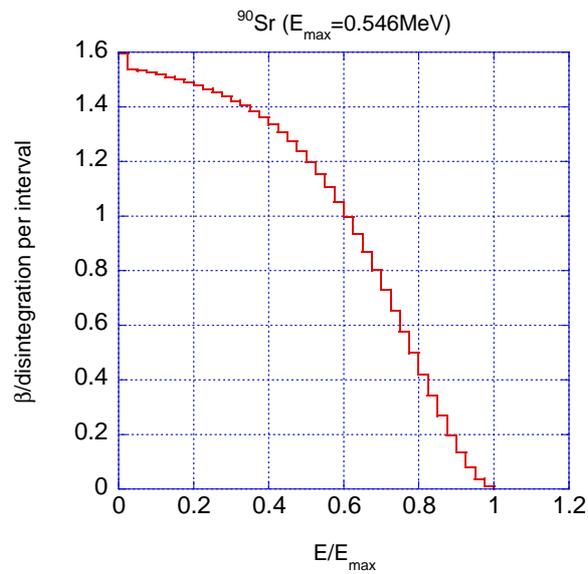


Figure 2:  $\beta$ -ray spectrum from Sr-90(ICRU Report 56).

Table 1  $\beta$ -ray spectrum from Sr-90(ICRU Report 56).

$E/E_{max}$	$\beta$ per dis. per bin	$E/E_{max}$	$\beta$ per dis. per bin
0.00	1.597	0.025	1.538
0.05	1.532	0.075	1.526
0.10	1.518	0.125	1.509
0.15	1.500	0.175	1.490
0.20	1.479	0.225	1.466
0.25	1.453	0.275	1.439
0.30	1.422	0.325	1.404
0.35	1.384	0.375	1.361
0.40	1.335	0.425	1.306
0.45	1.274	0.475	1.238
0.50	1.198	0.525	1.154
0.55	1.106	0.575	1.053
0.60	0.997	0.625	0.935
0.65	0.870	0.675	0.801
0.70	0.729	0.725	0.654
0.75	0.577	0.775	0.498
0.80	0.420	0.825	0.343
0.85	0.268	0.875	0.198
0.90	0.135	0.925	0.081
0.95	0.038	0.975	0.010
1.00	0.000		

1. cp ucsourc2.f ucsourc3.f

2. Modify ucsourc3.f as follows:

- Add "deltaes" and "emax" as the local variables.

Change

```
real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,esbin(MXEBIN),
* spg(MXEBIN),spe(MXEBIN),espdf(MXEBIN),escdf(MXEBIN)
```

to

```
real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,esbin(MXEBIN),
* spg(MXEBIN),spe(MXEBIN),espdf(MXEBIN),escdf(MXEBIN),
* deltaes,emax
```

- Modify the open statement for the source data file as follows.

Change

```
open(2,file='ir192.inp',status='unknown')
```

to

```
open(2,file='sr90beta.inp',status='unknown')
```

- sr90beta.inp is the data file including  $\beta$ -ray emission rate per energy bin and is included in the distribution files.

```
0.546
41
0.025
1.597,1.538 ,1.532,1.526 ,1.518,1.509 ,1.500,1.490 ,1.479,1.466 ,
1.453,1.439 ,1.422,1.404 ,1.384,1.361 ,1.335,1.306 ,1.274,1.238 ,
1.198,1.154 ,1.106,1.053 ,0.997,0.935 ,0.870,0.801 ,0.729,0.654 ,
0.577,0.498 ,0.420,0.343 ,0.268,0.198 ,0.135,0.081 ,0.038,0.010 ,
0.000
```

The maximum kinetic energy of  $\beta$ -rays is 0.546 MeV ( $E_{max}$ ), the number of energy bin is 41 and 0.025 is the bin width is 0.025, calculated as  $E/E_{max}$ .

- Modify the statements as follows to read data from the source data file.

Change

```
nsebin=7                                ! Number of source energy bins
read(2,*) (esbin(i),i=1,nsebin)
read(2,*) (espdf(i),i=1,nsebin)
```

to

```
read(2,*) emax                          ! Maximum beta-ray energy
read(2,*) nsebin                         ! Number of source energy bins
read(2,*) deltaes                        ! Source energy bin width in MeV
read(2,*) (espdf(i),i=1,nsebin)
```

- Insert a statement to calculate the energy corresponding to each energy bin.

Change

```
do ie=1,nsebin
  tnum=tnum+espdf(ie)
end do
```

to

```
do ie=1,nsebin
  esbin(ie)=(ie-1)*deltaes*emax
  tnum=tnum+espdf(ie)
end do
```

- Modify the statements for calculating cdf as follows.

Change

```

escdf(1)=espdf(1)/tnum
do ie=2,nsebin
  escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie)/tnum
end do

```

to

```

escdf(1)=0.0
do ie=2,nsebin
  escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie-1)/tnum
end do

```

- Modify the type of source particle as follows.

Change

```

iqin=0          ! Incident charge - photons

```

to

```

iqin=-1        ! Incident charge - electrons

```

- Increase the history number as follows. Change

```

ncases=10000

```

to

```

ncases=100000

```

- Modify the source energy sampling routines as follows.

Change

```

do ie=1,nsebin
  if(rnnow.le.escdf(ie)) go to 1000
end do
1000 ekein=esbin(ie)

```

to

```

do ie=2,nsebin
  if(rnnow.le.escdf(ie)) go to 1000
end do
1000 ekein=esbin(ie-1)+(rnnow-escdf(ie-1))*(esbin(ie)-esbin(ie-1))
*      /(escdf(ie)-escdf(ie-1))

```

- Modify the output statements of results as follows.

Change

```

do ie=1,nsebin
! -----
! Gamma spectrum per source
! -----
  spg(ie)=spg(ie)/ncount
! -----
! Electron spectrum per source
! -----
  spe(ie)=spe(ie)/ncount
  write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie)/tnum
170  FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5,8X,G12.5)
end do

```

to

```

do ie=2,nsebin
! -----
! Gamma spectrum per source
! -----

```

```

      spg(ie)=spg(ie)/ncount
!-----
! Electron spectrum per source
!-----
      spe(ie)=spe(ie)/ncount

      write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie-1)/tnum
170   FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5,8X,G12.5)
      end do

```

3. Run `ucsource3.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource3` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use `egs5run ucsource3 ucsource`

4. Check the sampled source photons spectrum in `egs5job.out`. An example of this result is as follows.

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
.13650E-01	MeV--	0.0000	0.38520E-01	0.39108E-01
.27300E-01	MeV--	0.0000	0.37330E-01	0.37663E-01
.40950E-01	MeV--	0.0000	0.36750E-01	0.37516E-01
.54600E-01	MeV--	0.0000	0.37710E-01	0.37369E-01
.68250E-01	MeV--	0.0000	0.37060E-01	0.37173E-01
.81900E-01	MeV--	0.0000	0.36010E-01	0.36953E-01
.95550E-01	MeV--	0.0000	0.36990E-01	0.36732E-01
.10920	MeV--	0.0000	0.36450E-01	0.36487E-01
.12285	MeV--	0.0000	0.37110E-01	0.36218E-01
.13650	MeV--	0.0000	0.35230E-01	0.35900E-01
.15015	MeV--	0.0000	0.35310E-01	0.35581E-01
.16380	MeV--	0.0000	0.34350E-01	0.35239E-01
.17745	MeV--	0.0000	0.35240E-01	0.34822E-01
.19110	MeV--	0.0000	0.34100E-01	0.34381E-01
.20475	MeV--	0.0000	0.33260E-01	0.33892E-01
.21840	MeV--	0.0000	0.34070E-01	0.33328E-01
.23205	MeV--	0.0000	0.32810E-01	0.32692E-01
.24570	MeV--	0.0000	0.32090E-01	0.31982E-01
.25935	MeV--	0.0000	0.31810E-01	0.31198E-01
.27300	MeV--	0.0000	0.30760E-01	0.30316E-01
.28665	MeV--	0.0000	0.29310E-01	0.29337E-01
.30030	MeV--	0.0000	0.28920E-01	0.28259E-01
.31395	MeV--	0.0000	0.27620E-01	0.27084E-01
.32760	MeV--	0.0000	0.25490E-01	0.25786E-01
.34125	MeV--	0.0000	0.23880E-01	0.24415E-01
.35490	MeV--	0.0000	0.23650E-01	0.22896E-01
.36855	MeV--	0.0000	0.21360E-01	0.21305E-01
.38220	MeV--	0.0000	0.19210E-01	0.19615E-01
.39585	MeV--	0.0000	0.18200E-01	0.17852E-01
.40950	MeV--	0.0000	0.15610E-01	0.16015E-01
.42315	MeV--	0.0000	0.14610E-01	0.14130E-01
.43680	MeV--	0.0000	0.12170E-01	0.12195E-01
.45045	MeV--	0.0000	0.10670E-01	0.10285E-01
.46410	MeV--	0.0000	0.84100E-02	0.83995E-02
.47775	MeV--	0.0000	0.63300E-02	0.65628E-02
.49140	MeV--	0.0000	0.50100E-02	0.48487E-02
.50505	MeV--	0.0000	0.33400E-02	0.33059E-02
.51870	MeV--	0.0000	0.21200E-02	0.19835E-02
.53235	MeV--	0.0000	0.88000E-03	0.93055E-03
.54600	MeV--	0.0000	0.25000E-03	0.24488E-03

### 3.3.2 Using RADAR - The Decay Data

RADAR - The Decay Data(<http://www.doseinfo-radar.com/RADARDecay.html>) provides many  $\beta$ -ray spectra in the form of a pdf per energy interval. Table 2 illustrates the  $\beta$ -ray spectrum from Sr-90.

Table 2  $\beta$ -ray spectrum from RADAR.

$E_{min}$	$E_{max}$	PDF
0.0000	0.0273	7.79E-02
0.0273	0.0546	7.60E-02
0.0546	0.0819	7.50E-02
0.0819	0.1092	7.40E-02
0.1092	0.1365	7.30E-02
0.1365	0.1638	7.17E-02
0.1638	0.1911	7.01E-02
0.1911	0.2184	6.80E-02
0.2184	0.2457	6.53E-02
0.2457	0.2730	6.19E-02
0.2730	0.3003	5.78E-02
0.3003	0.3276	5.27E-02
0.3276	0.3549	4.68E-02
0.3549	0.3822	4.01E-02
0.3822	0.4095	3.27E-02
0.4095	0.4368	2.48E-02
0.4368	0.4641	1.71E-02
0.4641	0.4914	9.75E-03
0.4914	0.5187	4.28E-03
0.5187	0.5460	1.01E-03

1. `cp ucsource3.f ucsource3.1.f`

2. Modify `ucsource3.1.f` as follows:

- Change local variables "deltaes" and "emax" to "beint."

Change

```
* deltaes,emax
```

to

```
* beint
```

- Add "iebeta" as the local variable integer.

Change

```
* i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin
```

to

```
* i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin,ibeta
```

- Add a character statement about source information.

Change

```
character*24 medarr(MXMED)
```

to

```
character*24 medarr(MXMED)
```

```
character*20 soinf
```

- Modify the open statement for the source data file as follows.

Change

```
open(2,file='sr90beta.inp',status='unknown')
```

to

```
open(2,file='Sr-90.dat',status='unknown')
```

- Sr-90beta.dat is the data file including  $\beta$ -ray pdfs per energy bin and is included in the distribution files.

```
Sr-90 Beta-  
-1,      1.0000  
0.0273,7.79E-02  
0.0546,7.60E-02  
0.0819,7.50E-02  
0.1092,7.40E-02  
0.1365,7.30E-02  
0.1638,7.17E-02  
0.1911,7.01E-02  
0.2184,6.80E-02  
0.2457,6.53E-02  
0.2730,6.19E-02  
0.3003,5.78E-02  
0.3276,5.27E-02  
0.3549,4.68E-02  
0.3822,4.01E-02  
0.4095,3.27E-02  
0.4368,2.48E-02  
0.4641,1.71E-02  
0.4914,9.75E-03  
0.5187,4.28E-03  
0.5460,1.01E-03
```

The "-1" at the second line implies electron decay. For positron decay this number must be "1".

- Modify the statements to read data from the source data file and related treatments.

Change

```
read(2,*) emax           ! Maximum beta-ray energy  RADAR  
read(2,*) nsebin        ! Number of source energy bins  
read(2,*) deltaes       ! Source energy bin width in MeV  
read(2,*) (espdf(i),i=1,nsebin)  
!-----  
! Calculate cdf from pdf  
!-----  
tnum=0.D0  
do ie=1,nsebin  
  esbin(ie)=(ie-1)*deltaes*emax  
  tnum=tnum+espdf(ie)  
end do  
  
escdf(1)=0.0  
do ie=2,nsebin  
  escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie-1)/tnum  
end do  
iqin=-1                ! Incident charge - electrons  
ekein=esbin(nsebin) ! Maximum kinetic energy
```

to

```

nsebin=21          ! Number of bin for beta-ray spectrum
esbin(1)=0.d0
espdf(1)=0.d0
read(2,'(A20)') soinf          ! Source information
read(2,*) ibeta, beint        ! Charge of beta-ray, emitted beta per decay
do ie=2,nsebin
  read(2,*) esbin(ie),espdf(ie) ! Upper bin and pdf
end do
!-----
! Calculate cdf from pdf
!-----
do ie=2,nsebin
  escdf(ie)=escdf(ie-1)+espdf(ie)/tnum
end do

iqin=ibeta          ! Incident charge - electrons
ekein=esbin(nsebin) ! Maximum kinetic energy

```

- Modify the output statements of results as follows.

Change

```
write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie-1)/tnum
```

to

```
write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie),espdf(ie)
```

### 3. Run ucsource3\_1.f through egs5run.

- In the case of Linux or Cygwin,
  - enter `ucsource3_1` as the user code;
  - enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and
  - enter 1 for "Does this user code read from the terminal?"
- In the case of DOS, use
 

```
egs5run ucsource3_1 ucsource
```

### 4. Check the sampled source electron spectrum in `egs5job.out`.

An example of this result is as follows.

Sampled source spectrum		particles/source		
Upper energy		Gamma	Electron	pdf
.27300E-01	MeV--	0.0000	0.77120E-01	0.77905E-01
.54600E-01	MeV--	0.0000	0.75250E-01	0.76005E-01
.81900E-01	MeV--	0.0000	0.74090E-01	0.75005E-01
.10920	MeV--	0.0000	0.74380E-01	0.74004E-01
.13650	MeV--	0.0000	0.73020E-01	0.73004E-01
.16380	MeV--	0.0000	0.70870E-01	0.71704E-01
.19110	MeV--	0.0000	0.69590E-01	0.70104E-01
.21840	MeV--	0.0000	0.68480E-01	0.68004E-01
.24570	MeV--	0.0000	0.65610E-01	0.65304E-01
.27300	MeV--	0.0000	0.62860E-01	0.61904E-01
.30030	MeV--	0.0000	0.58070E-01	0.57803E-01
.32760	MeV--	0.0000	0.53090E-01	0.52703E-01
.35490	MeV--	0.0000	0.47070E-01	0.46803E-01
.38220	MeV--	0.0000	0.39880E-01	0.40102E-01
.40950	MeV--	0.0000	0.33350E-01	0.32702E-01
.43680	MeV--	0.0000	0.24820E-01	0.24801E-01
.46410	MeV--	0.0000	0.17320E-01	0.17101E-01
.49140	MeV--	0.0000	0.97500E-02	0.97506E-02
.51870	MeV--	0.0000	0.43600E-02	0.42803E-02
.54600	MeV--	0.0000	0.10200E-02	0.10101E-02

## 4 Practice 2: Source Position

Here, we assumed that a source uniformly distributed inside an annual area between radii  $R_0(=1.5\text{cm})$  and  $R_1(=4.0\text{cm})$  in the X-Y plane.

### 4.1 Direct sampling

In this case, the pdf for the radii is

$$f(r)dr = c \times 2\pi r dr$$

$$\int_{R_0}^{R_1} f(\xi)d\xi = c\pi[\xi^2]_{R_0}^{R_1} = c\pi[R_1^2 - R_0^2] = 1$$

$$c = \frac{1}{\pi(R_1^2 - R_0^2)} \rightarrow f(r)dr = \frac{2r dr}{R_1^2 - R_0^2}$$

The radial position is obtained by solving

$$\eta = \int_{R_0}^r f(\xi)d\xi = \frac{r^2 - R_0^2}{R_1^2 - R_0^2}$$

$$r = \sqrt{R_0^2 + \eta(R_1^2 - R_0^2)}$$

The calculation of radius  $r$  showed that  $f(\phi)d\phi = d\phi/2\pi$ ; therefore, the next random number determines  $\phi$  by

$$\eta_2 = F(\phi) = \int_{-\pi}^{\phi} f(\phi)d\phi = (\phi + \pi)/2\pi$$

and  $\phi = \pi(2\eta_2 - 1)$ .

The variables  $x$  and  $y$  are calculated as follows:

$$x = r \cos \phi, y = r \sin \phi.$$

1. `cp ucsource.f ucsource4.f`

2. Modify `ucsource4.f` as follows:

- Add "r02", "r12" and "phai" to the local variable.

Change

```
* esbin(1),spg(1),spe(1)
```

to

```
* esbin(1),spg(1),spe(1),r02,r12,phai,rr0
```

- Insert statements to define r02 and r12.

Change

```
wtin=1.0          ! Weight = 1 since no variance reduction used
```

to

```
wtin=1.0          ! Weight = 1 since no variance reduction used
r02=1.5*1.5
r12=4.0*4.0
```

- Insert the statements to sample a source position as follows.

Change

```

! -----
! Determine position
! -----
to
! -----
! Determine position
! -----
call randomset(rnnow)
rr0=sqrt(r02+rnnow*(r12-r02))
call RANDOMSET(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
xin=rr0*cos(phai)
yin=rr0*sin(phai)

```

3. Run `ucsource4.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource4` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use  
`egs5run ucsource4 ucsource`

4. Check the trajectories by using CGview.

- Select the X-Y display mode.
- Bend the axis slightly and confirm that photons are emitted from the annulus of radii between 1.5 and 4.0.

## 4.2 Rejection method

The source position  $(x, y)$  can be sampled as follows using the "rejection" method.

In this technique, a point is chosen randomly within the square  $-1.0 \leq x \leq 1.0$ ;  $-1.0 \leq y \leq 1.0$ . If this point satisfies  $R_0/R_1 \leq r = \sqrt{x^2 + y^2} \leq 1.0$ ,  $(x * R_1, y * R_1)$  is accepted as the source position. Contrastively, if this point does not satisfy the aforementioned condition, it is rejected and a new point is sampled.

1. `cp ucsource4.f ucsource5.f`

2. Modify `ucsource5.f` as follows:

- Modify local variables as follows.

Change

```
* esbin(1),spg(1),spe(1),r02,r12,phai,rr0
```

to

```
* esbin(1),spg(1),spe(1),r0,r1,rr0
```

- Modify the statements related to the radii of circles as follows.

Change

```
r02=1.5*1.5
r12=4.0*4.0
```

to

```
r0=1.5
r1=4.0
```

- Modify the position sampling method as follows.

Change

```
! -----
! Determine position
! -----
call randomset(rnnow)
rr0=sqrt(r02+rnnow*(r12-r02))
call RANDOMSET(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
xin=rr0*cos(phai)
yin=rr0*sin(phai)
```

to

```
! -----
! Determine position
! -----
1100 call randomset(rnnow)
      xi0=2.0*rnnow-1.0
      call randomset(rnnow)
      yi0=2.0*rnnow-1.0
      rr0=sqrt(xi0*xi0+yi0*yi0)
      if (rr0.gt.1.0.or.rr0.lt.r0/r1) go to 1100
      xin =r1*xi0
      yin =r1*yi0
```

3. Run `ucsource5.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource5` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use `egs5run ucsource5 ucsource`

4. Check the trajectories by using CGview.

- Select the X-Y display mode.
- Bend the axis slightly and confirm that photons are emitted from the annulus of radii between 1.5 and 4.0.

## 5 Practice 4: Source Direction

### 5.1 Direct sampling

The pdf of a directional cosine for the Z-direction  $\cos \theta$  is given by

$$f(\theta)d\theta = c \times 2\pi \sin \theta d\theta \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$$

By setting

$$w = \cos \theta,$$

$$\frac{dw}{d\theta} = -\sin \theta \rightarrow g(w) = -c \times 2\pi dw,$$

and

$$\int_1^{-1} g(w)dw = -c \times 2\pi \times (-2) = 1.$$

Therefore,

$$c = \frac{1}{4\pi} \rightarrow g(w)dw = -\frac{1}{2}dw.$$

The variable  $w$  can be determined by solving the following equation.

$$\eta = \int_1^w g(w)dw = \frac{1}{2}(1-w) \rightarrow w = 1 - 2\eta.$$

For an isotropic source in the  $2\pi$  region,  $w$  can be determined as follows.

$$\int_1^0 g(w)dw = -c \times 2\pi \times (-1) = 1$$

$$c = \frac{1}{2\pi} \rightarrow g(w)dw = -dw.$$

$$\eta = \int_1^w g(w)dw = 1 - w \rightarrow w = 1 - \eta$$

Here,  $1 - \eta$  and  $\eta$  are equivalent; therefore,  $w = \eta$  is usually used.

After sampling  $w$ ,  $\phi$  is sampled as

$$\phi = \pi(2\eta - 1).$$

The variables  $u$  and  $v$  are calculated as

$$\sin \theta = \sqrt{1 - w^2}, u = \sin \theta \cos \phi, v = \sin \theta \sin \phi.$$

1. cp `ucsource.f` `ucsource6.f`
2. Modify `ucsource6.f`.

- Add "phai and rr0 to the local variables.

Change

```

      real*8
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
      * esbin(1),spg(1),spe(1)

```

! Local variables

to

```

      real*8
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
      * esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0

```

! Local variables

- Insert the direction sampling routine.

Change

```

!      -----
!      Determine source direction
!      -----

```

to

```

! -----
! Determine source direction
! -----
call randomset(rnnow)
win=rnnow
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
uin=dsqrt(1.0-win*win)*cos(phai)
vin=dsqrt(1.0-win*win)*sin(phai)

```

- Normalization of directional cosines.
  - The sampled directional cosines must be normalized.  
( $xin*xin+yin*yin+win*win=1.0$ ).

In the aforementioned sampled procedure, the directional cosines are normalized properly. If users sample directional cosines through their method, they must check whether they are normalized properly. The following statements must be inserted before "call shower."

```

! -----
! Verify the normalization of source direction cosines
! -----
if(abs(uin*uin+vin*vin+win*win-1.0).gt.1.e-6) then
  write(6,fmt="( ' Following source direction cosines are not',
1    ' normalized.',3e12.5)")uin,vin,win
  stop
end if

```

3. Run `ucsource6.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin,
  - enter `ucsource6` as the user code;
  - enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?"
- In the case of DOS, use
  - `egs5run ucsource6 ucsource`

4. Check the trajectories using `CGview`.

- Select the X-Y display mode.
- Confirm that photons are produced in isotropic within the  $2\pi$  region.

## 5.2 Rejection method

A point  $(x_i, y_i, z_i)$  is chosen randomly within the box  $-1.0 \leq x \leq 1.0; -1.0 \leq y \leq 1.0; 0.0 \leq z \leq 1.0$ . If this point lies within a sphere with unit radius,

$$R = \sqrt{x_1^2 + y_1^2 + z_1^2} \leq 1;$$

use sampled directional cosines as source directions. Variables  $u, v$ , and  $w$  are determined as follows.

$$u = x_1/R; \quad v = y_1/R; \quad w = z_1/R.$$

Otherwise, the point is rejected, and another point is sampled.

1. `cp ucsource6.f ucsource7.f`
2. Modify `ucsource7.f`.

- Modify the direction sampling routine.

Change

```
! -----
! Determine source direction
! -----
call randomset(rnnow)
win=rnnow
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
uin=dsqrt(1.0-win*win)*cos(phai)
vin=dsqrt(1.0-win*win)*sin(phai)
```

to

```
! -----
! Determine source direction
! -----
1300 call randomset(rnnow)
      zi0=rnnow
      call randomset(rnnow)
      xi0=2.0*rnnow-1.0
      call randomset(rnnow)
      yi0=2.0*rnnow-1.0
      rr0=dsqrt(xi0*xi0+yi0*yi0+zi0*zi0)
      if(rr0.gt.1.0) go to 1300
      win = zi0/rr0
      uin = xi0/rr0
      vin = yi0/rr0
```

3. Run `ucsource7.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource7` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use `egs5run ucsource7 ucsource`

4. Check the trajectories using `CGview` and confirm that photons are produced in isotropic within the  $2\pi$  region.

## 6 Practice 5: Isotropic Right Cylinder Volume Source

Suppose that radioisotopes emitting 1.235 MeV  $\gamma$ -rays distribute uniformly within a right cylinder (region 3). The directional cosines are determined using the rejection method.

### 6.1 Direct sampling

1. `cp ucsource7.f ucsource8.f`
2. Modify `ucsource8.f`.
  - Add "shl", "shh" and "shr" to the local variables.

Change

```
      real*8                                     ! Local variables
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
      * esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0
```

to

```
      real*8                                ! Local variables
      * availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
      * esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0,shl,shh,shr
```

- Define source information (Bottom and top positions, top position and radius of a right cylinder)

Change

```
      wtin=1.0                                ! Weight = 1 since no variance reduction used
```

to

```
      wtin=1.0                                ! Weight = 1 since no variance reduction used
```

```
      ! Define source information
      shl=3.d0    ! Minimum Z
      shh=5.d0    ! Maximum Z
      shr=2.d0    ! Source radius
```

- Change zi0 sampling from -1 to 1 to sample the angle in the  $4\pi$  direction.

That is change

```
      zi0=rnnow
```

to

```
      zi0=2.0*rnnow-1.0
```

- Insert the position sampling routine as follows.

Change

```
      ! -----
      ! Determine source position
      ! -----
```

to

```
      ! -----
      ! Determine source position
      ! -----
      call randomset(rnnow)
      zin=shl+rnnow*(shh-shl)    ! Determine Z-position
      call randomset(rnnow)
      rr0=shr*dsqrt(rnnow)      ! Determine r-position
      call randomset(rnnow)
      phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
      xin=rr0*cos(phai)         ! Determine X-position
      yin=rr0*sin(phai)        ! Determine Y-position
```

3. Run `ucsource7.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin, enter `ucsource7` as the user code; enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use  
`egs5run ucsource7 ucsource`

4. Run `ucsource8.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin,  
enter `ucsource8` as the user code;  
enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and  
enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use  
`egs5run ucsource8 ucsource`

5. Check the trajectories by using CGview and confirm that photons are produced in isotropic from the source right cylinder.

## 6.2 Rejection method

If the source geometry is complex, it is difficult to determine the source position by using the direct method. Thus the rejection method will be useful. In the following rejection method, a point  $(x_i, y_i, z_i)$  is chosen randomly within a rectangular parallelepiped, which includes the source region.  $X_{min} \leq x_i \leq X_{max}$ ;  $Y_{min} \leq y_i \leq Y_{max}$ ;  $Z_{min} \leq z_i \leq Z_{max}$ . If this point lies within the source right cylinder, the sampled position is used as the source position.

Otherwise, the point is rejected and another point is sampled.

The statements to obtain a region number of the sampled position must be written depending on the geometry routines used in the user code. If the user uses CG as the geometry description such as `ucsource.f`, the region number of the sampled position can be obtained using subroutine `srzone`.

1. `cp ucsource8.f ucsource9.f`

2. Modify `ucsource9.f`.

- Modify local variables "shl", "shh" and "shr".

Change

```

real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0,shl,shh,shr

```

to

```

real*8                                ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1),phai,rr0,
* sxmin,sxmax,symin,symax,szmin,szmax

```

- Define information of the rectangular parallelepiped (Minimum and maximum value of X, Y and Z).

Change

```

! Define source information
shl=3.d0 ! Minimum Z
shh=5.d0 ! Maximum Z
shr=2.d0 ! Source radius

```

to

```

! Define a rectangular parallelepiped for uniform sampling.
sxmin=-2.d0
sxmax=2.d0
symin=-2.d0
symax=2.d0
szmin=3.d0
szmax=5.d0

```

- Modify the source position sampling routines and the treatment received after obtaining the region number of a sampled point with "srzone." Subroutine srzone gives the region number of a sampled position (xin, yin, and zin) as irinn. If irinn is different from the source region, re-sample the source position. Subroutine "rstnxt" has a function to obtain region numbers surrounding irinn for effective checking of geometry using CG.

Change

```

! -----
! Determine source position
! -----
call randomset(rnnow)
zin=shl+rnnow*(shh-shl) ! Determine Z-position
call randomset(rnnow)
rr0=shr*dsqrt(rnnow) ! Determine r-position
call randomset(rnnow)
phai=PI*(2.0*rnnow-1.0)
xin=rr0*cos(phai) ! Determine X-position
yin=rr0*sin(phai) ! Determine Y-position

! -----
! Get source region from cg input data
! -----

if(irin.le.0.or.irin.gt.nreg) then
  call srzone(xin,yin,zin,iqin+2,0,irinn)
  if(irinn.le.0.or.irinn.ge.nreg) then
    write(6,fmt="( ' Stopped in MAIN. irinn = ',i5)")irinn
    stop
  end if
  call rstnxt(iqin+2,0,irinn)
else
  irinn=irin
end if

to

! -----
! Determine source position
! -----
1400 call randomset(rnnow)
zin=szmin+rnnow*(szmax-szmin) ! Determine Z-position
call randomset(rnnow)
xin=sxmin+rnnow*(sxmax-sxmin) ! Determine X-position
call randomset(rnnow)
yin=symin+rnnow*(symax-symin) ! Determine Y-position

! -----
! Get source region from cg input data
! -----

if(irin.le.0.or.irin.gt.nreg) then
  call srzone(xin,yin,zin,iqin+2,0,irinn)
  if(irinn.le.0.or.irinn.ge.nreg) then
    write(6,fmt="( ' Stopped in MAIN. irinn = ',i5)")irinn
    stop
  end if
! If a sampled position is outside the source region,
! re-sample a position.
  if(irinn.ne.3) go to 1400
  call rstnxt(iqin+2,0,irinn)
else
  irinn=irin
end if

```

- The conditional statement `if(irinn.ne.3) go to 1400` must be modified depending on the source regions. If the source distributed within the regions 4 and 6, this statement is changed as follows.

```
if(irinn.ne.4.and.irinn.ne.6) go to 1400
```

3. Run `ucsource9.f` through `egs5run`.

- In the case of Linux or Cygwin,  
enter `ucsource9` as the user code;  
enter `ucsource` as the file name for unit 4 and simply enter "return" for unit 25; and  
enter 1 for "Does this user code read from the terminal?".
- In the case of DOS, use  
`egs5run ucsource9 ucsource`

4. Check the trajectories by using `CGview` and confirm that photons are produced in isotropic from the source right cylinder.

## Appendix: Full listings of ucucsource.f

```

*****
***** KEK, High Energy Accelerator Research *
***** Organization *
*** u c s o u r c e ***** *
***** EGS5.0 USER CODE - 28 Jul 2012/1430 *
***** *
! This is a general User Code based on the cg geometry scheme. *
*****

```

```

PROGRAMMERS: H. Hirayama
Applied Research Laboratory
KEK, High Energy Accelerator Research Organization
1-1, Oho, Tsukuba, Ibaraki, 305-0801
Japan

```

```

E-mail: hideo.hirayama@kek.jp
Telephone: +81-29-864-5451
Fax: +81-29-864-4051

```

```

Y. Namito
Radiation Science Center
Applied Research Laboratory
KEK, High Energy Accelerator Research Organization
1-1, Oho, Tsukuba, Ibaraki, 305-0801
Japan

```

```

E-mail: yoshihito.namito@kek.jp
Telephone: +81-29-864-5489
Fax: +81-29-864-1993

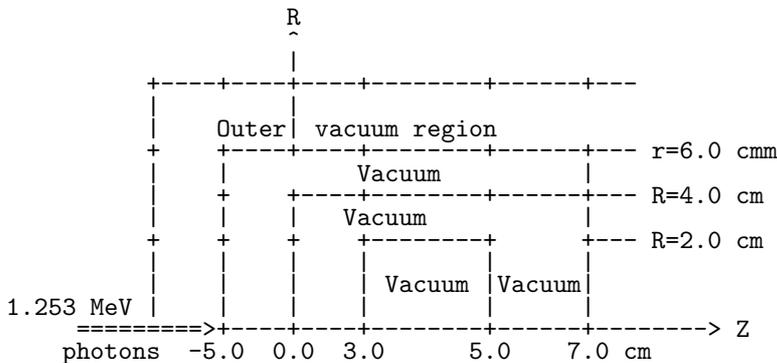
```

```

*****
*****
! The ucsourc.f User Code requires a cg-input file only *
! (e.g., ucsourc.data). *
! The following shows the geometry for ucsourc.data. *
! Input data for CG geometry must be written at the top of data-input *
! file together with material assignment to each region. Cg-data can *
! be checked by CGview. *
! This user code to understand source routine. *
! Use Ranlux random number generator. *
*****

```

-----  
cg Geometry (ucsource)  
-----



```

*****
23456789|123456789|123456789|123456789|123456789|123456789|123456789|12

```

-----  
main code  
-----

```

! Step 1: Initialization

```

```

implicit none

```

```

-----
EGS5 COMMONs
-----

```

```

include 'include/egs5_h.f' ! Main EGS "header" file

```

```

include 'include/egs5_bounds.f'
include 'include/egs5_brempr.f'
include 'include/egs5_edge.f'
include 'include/egs5_media.f'
include 'include/egs5_misc.f'
include 'include/egs5_thresh.f'
include 'include/egs5_uphiot.f'
include 'include/egs5_useful.f'
include 'include/egs5_usersc.f'
include 'include/egs5_userxt.f'
include 'include/randomm.f'

!
! -----
! Auxiliary-code COMMONs
! -----
include 'auxcommons/aux_h.f' ! Auxiliary-code "header" file

include 'auxcommons/edata.f'
include 'auxcommons/etaly1.f'
include 'auxcommons/instuf.f'
include 'auxcommons/lines.f'
include 'auxcommons/nfac.f'
include 'auxcommons/watch.f'

!
! -----
! cg related COMMONs
! -----
include 'auxcommons/geom_common.f' ! geom-common file
integer irinn

common/totals/ ! Variables to score
* maxpict
integer maxpict

!**** real*8 ! Arguments
real*8 totke
real*8 rnow,etot

real*8 ! Local variables
* availke,tnum,wtin,wtsum,xi0,yi0,zi0,
* esbin(1),spg(1),spe(1)

real
* tarray(2),tt,tt0,tt1,cputime,etime

integer
* i,icases,idin,ie,ifti,ifto,ii,j,k,n,nd,ner,nsebin

character*24 medarr(MXMED)

!
! -----
! Open files
! -----
! -----
! Units 7-26 are used in pegs and closed. It is better not
! to use as output file. If they are used, they must be opened
! after call pegs5. Unit for pict must be 39.
! -----

open(6,FILE='egs5job.out',STATUS='unknown')
open(4,FILE='egs5job.inp',STATUS='old')
open(39,FILE='egs5job.pic',STATUS='unknown')

!
! =====
! call counters_out(0)
! =====

! -----
! Step 2: pegs5-call
! -----
! =====
! call block_set ! Initialize some general variables
! =====

!
! -----
! Define media before calling PEGS5
! -----

nmed=1
if(nmed.gt.MXMED) then

```

```

    write(6,'(A,I4,A,I4,A/A)')
*      ' nmed (' ,nmed,') larger than MXMED (' ,MXMED,')',
*      ' MXMED in include/egs5_h.f must be increased.'
    stop
end if

medarr(1)='NAI

do j=1,nmed
  do i=1,24
    media(i,j)=medarr(j)(i:i)
  end do
end do

chard(1) = 1.0d0      ! optional, but recommended to invoke
                    ! automatic step-size control

write(6,fmt="( 'chard =',5e12.5)" (chard(j),j=1,nmed)

! -----
! Run KEK PEGS5 before calling HATCH
! -----
100 write(6,100)
   FORMAT('PEGS5-call comes next'/)

! =====
! call pegs5
! =====

!-----
! Step 3: Pre-hatch-call-initialization
!-----
! Initialize cg related parameter
!-----
npreci=3      ! PICT data mode for CGView in free format

ifti = 4      ! Input unit number for cg-data
ifto = 39     ! Output unit number for PICT

write(6,fmt="( ' CG data' )" )
call geomgt(ifti,6) ! Read in CG data
write(6,fmt="( ' End of CG data',/ )" )

if(npreci.eq.3) write(ifto,fmt="( 'CSTA-FREE-TIME' )" )
if(npreci.eq.2) write(ifto,fmt="( 'CSTA-TIME' )" )

rewind ifti
call geomgt(ifto,ifto)! Dummy call to write geom info for ifto
110 write(ifto,110)
   FORMAT('CEND')

!-----
! Get nreg from cg input data
!-----
nreg=izonin

! Read material for each refion from egs5job.data
read(4,*) (med(i),i=1,nreg)

! -----
! Random number seeds. Must be defined before call hatch
! or defaults will be used. inseed (1- 2^31)
! -----
luxlev = 1
inseed=1
write(6,120) inseed
120 FORMAT(/,' inseed=',I12,5X,
*      '(seed for generating unique sequences of Ranlux)')

! =====
! call rluxinit ! Initialize the Ranlux random-number generator
! =====

!-----
! Step 4: Determination-of-incident-particle-parameters
!-----
! Define initial variables for incident particle normally incident
! on the slab
nsebin=1
iqin=0      ! Incident charge - photons
ekein=1.253 ! Kinetic energy

```

```

xin=0.0          ! Source position
yin=0.0
zin=-5.0
uin=0.0          ! Moving along z axis
vin=0.0
win=1.0
irin=0           ! Starting region (0: Automatic search in CG)
wtin=1.0        ! Weight = 1 since no variance reduction used
-----
! Step 5:  hatch-call
-----
      emaxe = 0.D0 ! dummy value to extract min(UE,UP+RM).

130   write(6,130)
      format(/,' Call hatch to get cross-section data')

! -----
!   Open files (before HATCH call)
! -----
      open(UNIT=KMPI,FILE='pgs5job.pegs5dat',STATUS='old')
      open(UNIT=KMPO,FILE='egs5job.dummy',STATUS='unknown')

140   write(6,140)
      FORMAT(/,' HATCH-call comes next',/)

!   =====
!   call hatch
!   =====

! -----
!   Close files (after HATCH call)
! -----
      close(UNIT=KMPI)
      close(UNIT=KMPO)

      write(39,fmt="('MSTA')")
      write(39,fmt="(i4)") nreg
      write(39,fmt="(15i4)") (med(i),i=1,nreg)
      write(39,fmt="('MEND')")
-----
! Step 6:  Initialization-for-howfar
-----
-----
! Step 7:  Initialization-for-ausgab
-----

      ncount = 0
      ilines = 0
      nwrite = 10
      nlines = 10
      idin = -1
      totke = 0.
      wtsum = 0.

!   =====
!   call ecnsv1(0,nreg,totke)
!   call ntally(0,nreg)
!   =====

!   esbin(1)=ekein
!   Zero the variables
!   do j=1,nsebin
!       spg(j)=0.D0
!       spe(j)=0.D0
!   end do

!   Set histories and histories to write trajectories
!   ncases=10000
!   Set maximum number for pict
!   maxpict=500

      tt=etime(tarray)
      tt0=tarray(1)
-----
! Step 8:  Shower-call
-----
!   Write batch number
!   write(39,fmt="( '0  1' )")

```

```

do i=1,ncases
! -----
! Start of batch -loop
! -----

wtin = 1.0
wtsum = wtsum + wtin          ! Keep running sum of weights

! -----
! Determine source energy
! -----
ekein = ekein
spg(1)=spg(1)+1.0

etot = ekein + iabs(iqin)*RM          ! Incident total energy (MeV)
availke = etot + iqin*RM             ! Available K.E. (MeV) in system
totke = totke + availke              ! Keep running sum of KE

! -----
! Determine source direction
! -----

! -----
! Determine source position
! -----

! -----
! Get source region from cg input data
! -----

if(irin.le.0.or.irin.gt.nreg) then
  call srzone(xin,yin,zin,iqin+2,0,irinn)
  if(irinn.le.0.or.irinn.ge.nreg) then
    write(6,fmt="( ' Stopped in MAIN. irinn = ',i5)")irinn
    stop
  end if
  call rstnxt(iqin+2,0,irinn)
else
  irinn=irin
end if

! -----
! Compare maximum energy of material data and incident energy
! -----
if(etot+(1-iabs(iqin))*RM.gt.emaxe) then
  write(6,fmt="( ' Stopped in MAIN. ',
1    ' (Incident kinetic energy + RM) > min(UE,UP+RM). ')"
  stop
end if

! -----
! Verify the normalization of source direction cosines
! -----
if(abs(uin*uin+vin*vin+win*win-1.0).gt.1.e-6) then
  write(6,fmt="( ' Following source direction cosines are not',
1    ' normalized. ',3e12.5)")uin,vin,win
  stop
end if

! =====
! call shower (iqin,etot,xin,yin,zin,uin,vin,win,irinn,wtin)
! =====

ncount = ncount + 1          ! Count total number of actual cases

end do
! -----
! End of batch loop
! -----

call plotxyz(99,0,0,0.D0,0.D0,0.D0,0.D0,0,0.D0,0.D0)

write(39,fmt="( '9' )" )          ! Set end of batch for CG View

tt=etime(tarray)
tt1=tarray(1)
cputime=tt1-tt0
write(6,150) cputime
150 format(' Elapsed Time (sec)=',G15.5)

!-----
! Step 9: Output-of-results

```

```

!-----
!
! Source spectrum. Incident particle spectrum to detector.
!-----
160 write(6,160)
   FORMAT(/' Sampled source spectrum'/
*       30X,'particles/source'/
*       ' Upper energy',11X,' Gamma',14X,' Electron',
*       11X,' pdf')

   do ie=1,nsebin

! -----
! Gamma spectrum per source
! -----
      spg(ie)=spg(ie)/ncount
! -----
! Electron spectrum per source
! -----
      spe(ie)=spe(ie)/ncount

   write(6,170) esbin(ie),spg(ie),spe(ie)
170   FORMAT(G10.5,' MeV--',8X,G12.5,8X,G12.5)
   end do

! =====
! call counters_out(1)
! =====

   stop

   end

!-----last line of main code-----
!-----ausgab.f-----
! Version: 030831-1300
! Reference: SLAC-265 (p.19-20, Appendix 2)
!-----
!23456789|123456789|123456789|123456789|123456789|123456789|123456789|12
!
! Required subroutine for use with the EGS5 Code System
!-----
! A AUSGAB to: produce trajectory data for imode=0
!-----

   subroutine ausgab(iarg)

   implicit none

   include 'include/egs5_h.f'           ! Main EGS "header" file
   include 'include/egs5_epcont.f'     ! COMMONs required by EGS5 code
   include 'include/egs5_misc.f'
   include 'include/egs5_stack.f'
   include 'include/egs5_useful.f'

   include 'auxcommons/aux_h.f'       ! Auxiliary-code "header" file
   include 'auxcommons/lines.f'       ! Auxiliary-code COMMONs

   common/totals/                     ! Variables to score
* maxpict
   integer maxpict

   integer                             ! Arguments
* iarg

   real*8                               ! Local variables
* edepwt

   integer
* ie,iql,irl

! -----
! Set some local variables
! -----
   irl = ir(np)

```

```

    iql = iq(np)
    edepwt = edep*wt(np)

! -----
! Output particle information for plot
! -----
    if (ncount.le.maxpict) then
        call plotxyz(iarg,np,iq(np),x(np),y(np),z(np),e(np),ir(np),
*         wt(np),time(np))
    end if

    return

end

!-----last line of ausgab.f-----
!-----howfar.f-----
! Version: 070627-1600
! Reference: T. Torii and T. Sugita, "Development of PRESTA-CG
! Incorporating Combinatorial Geometry in EGS4/PRESTA", JNC TN1410 2002-201,
! Japan Nuclear Cycle Development Institute (2002).
! Improved version is provided by T. Sugita. 7/27/2004
!-----
!23456789|123456789|123456789|123456789|123456789|123456789|123456789|12

! -----
! Required (geometry) subroutine for use with the EGS5 Code System
! -----
! This is a CG-HOWFAR.
! -----

subroutine howfar
implicit none

c
include 'include/egs5_h.f'      ! Main EGS "header" file
include 'include/egs5_epcont.f' ! COMMONs required by EGS5 code
include 'include/egs5_stack.f'
include 'auxcommons/geom_common.f' ! geom-common file

c
c
integer i,j,jjj,ir_np,nozone,jty,kno
integer irnear,irnext,irlold,irlfg,itvlf,ihitcg
double precision xidd,yidd,zidd,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np
double precision tval,tval0,tval00,tval10,tvalmn,delhow
double precision atvalttmp
integer iq_np

c
ir_np = ir(np)
iq_np = iq(np) + 2

c
if(ir_np.le.0) then
    write(6,*) 'Stopped in howfar with ir(np) <=0'
    stop
end if

c
if(ir_np.gt.izonin) then
    write(6,*) 'Stopped in howfar with ir(np) > izonin'
    stop
end if

c
if(ir_np.EQ.izonin) then
    idisc=1
    return
end if

c
tval=1.d+30
itvalm=0

c
c
body check
u_np=u(np)
v_np=v(np)
w_np=w(np)
x_np=x(np)
y_np=y(np)
z_np=z(np)

c
do i=1,nbbody(ir_np)
    nozone=ABS(nbzone(i,ir_np))
    jty=itblty(nozone)

```

```

      kno=itblno(nozone)
c   rpp check
      if(jty.eq.ityknd(1)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.irppin) go to 190
        call rppcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   sph check
      elseif(jty.eq.ityknd(2)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.isphin) go to 190
        call sphcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   rcc check
      elseif(jty.eq.ityknd(3)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.irccin) go to 190
        call rcccg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   trc check
      elseif(jty.eq.ityknd(4)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.itrcin) go to 190
        call trccg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   tor check
      elseif(jty.eq.ityknd(5)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.itorin) go to 190
        call torcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   rec check
      elseif(jty.eq.ityknd(6)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.irecin) go to 190
        call reccg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   ell check
      elseif(jty.eq.ityknd(7)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.iellin) go to 190
        call ellcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   wed check
      elseif(jty.eq.ityknd(8)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.iwedin) go to 190
        call wedcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   box check
      elseif(jty.eq.ityknd(9)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.iboxin) go to 190
        call boxcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   arb check
      elseif(jty.eq.ityknd(10)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.iarbin) go to 190
        call arbcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   hex check
      elseif(jty.eq.ityknd(11)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.ihexin) go to 190
        call hexcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   haf check
      elseif(jty.eq.ityknd(12)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.ihafin) go to 190
        call hafcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   tec check
      elseif(jty.eq.ityknd(13)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.itecin) go to 190
        call teccg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c   gel check
      elseif(jty.eq.ityknd(14)) then
        if(kno.le.0.or.kno.gt.igelin) go to 190
        call gelcg1(kno,x_np,y_np,z_np,u_np,v_np,w_np)
c
c**** add new geometry in here
c
      end if
190  continue
      end do
c
      irnear=ir_np
      if(itvalm.eq.0) then
        tval0=cgeps1
        xidd=x_np+tval0*u_np
        yidd=y_np+tval0*v_np
        zidd=z_np+tval0*w_np
310  continue
        if(x_np.ne.xidd.or.y_np.ne.yidd.or.z_np.ne.zidd) goto 320
        tval0=tval0*10.d0
        xidd=x_np+tval0*u_np
        yidd=y_np+tval0*v_np
        zidd=z_np+tval0*w_np

```

```

    go to 310
    continue
320 write(*,*) 'srzone:1'
    call srzone(xidd,yidd,zidd,iq_np,ir_np,irnext)
c
    if(irnext.ne.ir_np) then
        tval=0.0d0
        irnear=irnext
    else
        tval00=0.0d0
        tval10=10.0d0*tval0
        irlold=ir_np
        irlfg=0
330 continue
        if(irlfg.eq.1) go to 340
            tval00=tval00+tval10
            if(tval00.gt.1.0d+06) then
                write(6,9000) iq(np),ir(np),x(np),y(np),z(np),
& u(np),v(np),w(np),tval00
9000 format(' TVAL00 ERROR : iq,ir,x,y,z,u,v,w,tval=',
& 2I3,1P7E12.5)
                stop
            end if
            xidd=x_np+tval00*u_np
            yidd=y_np+tval00*v_np
            zidd=z_np+tval00*w_np
            call srzold(xidd,yidd,zidd,irlold,irlfg)
            go to 330
340 continue
c
        tval=tval00
        do j=1,10
            xidd=x_np+tval00*u_np
            yidd=y_np+tval00*v_np
            zidd=z_np+tval00*w_np
c
            write(*,*) 'srzone:2'
            call srzone(xidd,yidd,zidd,iq_np,irlold,irnext)
            if(irnext.ne.irlold) then
                tval=tval00
                irnear=irnext
            end if
            tval00=tval00-tval0
        end do
        if(ir_np.eq.irnear) then
            write(0,*) 'ir(np),tval=',ir_np,tval
        end if
    end if
else
    do j=1,itvalm-1
        do i=j+1,itvalm
            if(atval(i).lt.atval(j)) then
                atvaltmp=atval(i)
                atval(i)=atval(j)
                atval(j)=atvaltmp
            endif
        enddo
    enddo
    itvlf=0
    tvalmn=tval
    do jjj=1,itvalm
        if(tvalmn.gt.atval(jjj)) then
            tvalmn=atval(jjj)
        end if
        delhow=cgeps2
        tval0=atval(jjj)+delhow
        xidd=x_np+tval0*u_np
        yidd=y_np+tval0*v_np
        zidd=z_np+tval0*w_np
410 continue
        if(x_np.ne.xidd.or.y_np.ne.yidd.or.z_np.ne.zidd) go to 420
            delhow=delhow*10.d0
            tval0=atval(jjj)+delhow
            xidd=x_np+tval0*u_np
            yidd=y_np+tval0*v_np
            zidd=z_np+tval0*w_np
        go to 410
420 continue
c
        write(*,*) 'srzone:3'
        call srzone(xidd,yidd,zidd,iq_np,ir_np,irnext)

```

```

        if((irnext.ne.ir_np.or.atval(jjj).ge.1.).and.
&         tval.gt.atval(jjj)) THEN
            tval=atval(jjj)
            irnear=irnext
            itvlf=1
            goto 425
        end if
    end do
425  continue
    if(itvlf.eq.0) then
        tval0=cgmnst
        xidd=x_np+tval0*u_np
        yidd=y_np+tval0*v_np
        zidd=z_np+tval0*w_np
430  continue
        if(x_np.ne.xidd.or.y_np.ne.yidd.or.z_np.ne.zidd) go to 440
        tval0=tval0*10.d0
        xidd=x_np+tval0*u_np
        yidd=y_np+tval0*v_np
        zidd=z_np+tval0*w_np
        go to 430
440  continue
        if(tvalmn.gt.tval0) then
            tval=tvalmn
        else
            tval=tval0
        end if
    end if
end if
ihitcg=0
if(tval.le.ustep) then
    ustep=tval
    ihitcg=1
end if
if(ihitcg.eq.1) THEN
    if(irnear.eq.0) THEN
        write(6,9200) iq(np),ir(np),x(np),y(np),z(np),
&         u(np),v(np),w(np),tval
9200 format(' TVAL ERROR : iq,ir,x,y,z,u,v,w,tval=',2I3,1P7E12.5)
        idisc=1
        itverr=itverr+1
        if(itverr.ge.100) then
            stop
        end if
        return
    end if
    irnew=irnear
    if(irnew.ne.ir_np) then
        call rstnxt(iq_np,ir_np,irnew)
    endif
end if
return
end
!-----last line of subroutine howfar-----

```